

岡山県のウスバシロチョウ

渡辺和夫*

ウスバシロチョウ *Parnassius glacialis* BUTLER は寒冷地や山岳地帯に生息する種の多い *Parnassius* 属の中では例外的に温帯にもその分布を広げており、我国においても九州地方を除き、北は北海道から南は中国・四国地方に至る全土に広く生息している。しかしその分布は、一部を除き、平野部にまでは及んでいないようで、一般にやや山地性の傾向がある。

岡山県における本種の分布については、松野(1970)によって近畿北部から中国地方の分布の概要がまとめられた中で一部触れられており、次いで倉敷昆虫同好会(1972)によって県内の記録が整理された。その後新産地の報告もいくつかあるが、それらを合わせても空白地域がかなり目につくのが現状である。特に、分布が当然予想される北部中国山地一帯にかなりの未記録地があること及び南限付近についての調査が十分行われていないこと等に気がつく。

筆者は、分布の空白(単に未発表に過ぎない地域も多いとは思われるが)を埋めるべく1981年から調査に着手したが、よき協力者にも恵まれ、1985年までの間に一部の未調査地域を除きかなりの資料を集めることができ、分布記録の密度も一応のレベルに達したものと思われる所以、ここにその概要をまとめて報告する。

調査に全面的に御協力いただいた本会会員の尾間啓吉・織田明文・中村具見の諸氏、各地南限付近の貴重な資料を提供していただいた河田和雄・近藤要一・若槻匡志・脇本浩の諸氏には心から感謝申し上げる。

岡山県の地形

本種の分布は河川流域に沿って述べられるのが一般的だが、地形からの考察も無意味ではないと思われる。

そこで、分布の概要を述べる前に、岡山県の地形について若干触れてみたい。

岡山県の地形を概観すると、北部中国山地と吉備高原、それに続く瀬戸内丘陵の3つに大別される。

中国山地の脊梁部は岡山県においてはかなり北部に偏っており、しかも広島・鳥取・山口の三県に跨る冠山山系とは対照的に、三大河川の吉井川・旭川・高梁川及びその支流によっていくつもの小山塊に分断されている。また、これら小山塊の間には、標高約300~700mの山間盆地が点在する。

中国山地の南には、美作・津山・勝山・新見と東西に連なる盆地列(90~200m)を隔てて吉備高原が続いている。

吉備高原は、西は広島市から東は岡山県東部にまで至る標高約300~600mの高原(隆起準平原)で、岡山県では最も広い面積を占め(約3分の2)、標高500mを境に高原状山地と侵食小起伏面に二分され、前者は新見東方から南南西に多く、後者は県の南東部に多い。今回の報告とは直接関係はないと思われるが、特に吉備高原西部には石灰岩が広く分布し、岡山県の昆虫相を考える上で最も重要な地域の1つである。

瀬戸内丘陵については、特に触れる必要がないので省略する。

分布資料

文献記録及び筆者らの記録を市町村別に整理すると次のとおりである。

これらの記録は、採集地(採集地点のおおよその標高)、採集個体数、採集年月日、採集者の順に記し、文献記録は採集年月日(不明の場合は採集地)の右肩にその記録を引用した文献番号を示した。すずむし第108号で整理された記録¹³⁾は、新知見以外は原文献を参照したのでその文献番号を示した。また、目撃又は

* 〒719-11 総社市三輪203

写真による記録の場合はその内容を記し、同一市町村内の記録は原則として採集年月日の古い順に記した。

なお、採集者名は尾関啓吉 (K O)・織田明文 (A O)・中村具見 (T N)・渡辺和夫 (K W)について略記し、その他は名字のみを記した。(大佐町君山の記録は、故風早保男氏の採集品を中村氏が譲り受けたものであるので、採集者は「風早」とした。)

また、倉敷昆虫館所蔵の標本のうち勝山町神庭産以外の標本についてその記録を併記し、採集地の右肩に※印を示した。

〔阿哲郡〕

| | | | | |
|----------------------|---------|--------|---------------------|-----|
| 哲西町生木 (420m) | 1 ♂ | 12. V. | 1985 | KW |
| タ 信藤 (550m) | 3 ♂ | 12. V. | 1985 | KW |
| 哲多町大野 | 3 ♂ | 9. V. | 1982 ³²⁾ | |
| タ 蚊家本村 (350m) | 2 ♂ | 15. V. | 1982 | T N |
| タ タ | 4 ♂ | 3. V. | 1983 | T N |
| タ 宗本 (450m) | 1 ♂ 1 ♀ | 22. V. | 1982 | A O |
| タ 矢戸川上 (330m) | 1 ♂ | 3. V. | 1983 | T N |
| タ 引無 (470m) | 3 ♂ | 12. V. | 1985 | KW |
| 神郷町本村 (350m) | 1 ex. | 26. V. | 1976 ³⁵⁾ | |
| タ 奥谷 (550m) | 1 ex. | 26. V. | 1976 ³⁵⁾ | |
| タ (500m) | 4 ♂ 3 ♀ | 21. V. | 1978 | T N |
| タ 高瀬川西川合流点 (440m) | | | | |
| | 1 ex. | 26. V. | 1976 ³⁵⁾ | |
| タ 下油野 | 1 ♂ | 12. V. | 1978 ³²⁾ | |
| タ 上油野 (450m) | 2 ♂ | 20. V. | 1979 | T N |
| タ タ | 8 ♂ 3 ♀ | 18. V. | 1980 | KW |
| 神郷町三室 (620m) | 5 ♂ | 20. V. | 1979 | T N |
| タ 篠村 | 7 ♂ | 8. V. | 1982 ³²⁾ | |
| タ 油野重藤 (430m) | | | | |
| | 1 ♂ 1 ♀ | 15. V. | 1982 | KW |
| タ 油野足立駅付近 (310m) | | | | |
| | 3 ♂ | 15. V. | 1982 | KW |
| タ 坂根 | 2 ♂ | 16. V. | 1982 ³²⁾ | |
| 大佐町大井野 ⁴⁾ | | | | |
| タ タ | 1 ♂ | 15. V. | 1982 ³²⁾ | |
| タ 大佐山 | 目撃 | V. | 1961 ⁴⁾ | |
| タ 伏谷 (620m) | | 7. VI. | 1971 ³⁴⁾ | |
| タ タ | | 2. VI. | 1972 ³⁴⁾ | |
| タ タ | 1 ♂ 1 ♀ | 27. V. | 1985 | 若楓 |
| タ 赤松 (500m) | | 2. VI. | 1972 ³⁴⁾ | |
| タ 上刑部 | 1 ♂ 2 ♀ | 19. V. | 1977 ³⁸⁾ | |
| タ 君山 | 6 ♂ | 26. V. | 1981 | 風早 |
| タ 田治部 (370m) | 5 ♂ | 9. V. | 1982 | T N |
| タ 古谷 | 3 ♂ | 15. V. | 1982 ³²⁾ | |

〔新見市〕

| | | | | |
|------------------|---------|---------|---------------------|---------------------|
| 林 ¹³⁾ | | | | |
| 布原 | 1 ♂ | 25. V. | 1958 ²⁹⁾ | |
| タ | 2 ♂ | 21. V. | 1984 | 若楓 |
| タ (230m) | 5 ♂ | 4. V. | 1983 | T N |
| 千屋実谷 | 2 ♂ 1 ♀ | 19. V. | 1977 ¹⁸⁾ | |
| タ (580m) | 4 ♂ | 21. V. | 1978 | T N |
| タ 矢峰 (600m) | | | 3. VI. | 1975 ³⁴⁾ |
| 千屋井原蓬 (630m) | 1 ♂ | 29. V. | 1977 | T N |
| 菅生用郷 (650m) | 1 ex. | 20. V. | 1976 ³⁵⁾ | |
| タ 別所 (500m) | 1 ex. | 20. V. | 1976 ³⁵⁾ | |
| タ 塩津 (370m) | 1 ♂ | 15. V. | 1983 | T N |
| 上熊谷四河 (320m) | 7 ♂ | 9. V. | 1982 | T N |
| 西方久原 (250~300m) | 3 ♂ | 4. V. | 1983 | T N |
| 坂本定清 (270m) | 1 ♂ | 15. V. | 1983 | T N |
| 草間大原 | | | 2. VI. | 1971 ¹⁸⁾ |
| タ (410m) | 1 ex. | 7. VI. | 1971 ³⁴⁾ | |
| タ (440m) | 1 ♂ | 5. V. | 1982 | A O |
| タ | 3 ♂ | 9. V. | 1982 | T N |
| 草間小中 (420m) | 2 ♂ | 5. V. | 1982 | A O |
| タ | 14 ♂ | 9. V. | 1982 | T N |
| タ | 4 ♂ | 15. V. | 1982 | KW |
| 草間切畑 (380m) | 2 ♂ | 19. V. | 1984 ²⁹⁾ | |
| 土橋 | 幼虫:写真 | 15. IV. | 1982 ¹⁹⁾ | |
| タ | ♂:写真 | 4. V. | 1982 ¹⁹⁾ | |
| タ | ♂+♀:写真 | 23. V. | 1982 ¹⁹⁾ | |
| タ (380m) | 3 ♂ | 9. V. | 1982 | T N |
| タ 新屋原 (410m) | 1 ♂ | 3. V. | 1985 | A O |
| タ タ | 3 ♂ | 3. V. | 1985 | T N |
| タ タ | 4 ♂ | 3. V. | 1985 | KW |
| タ タ | 7 ♂ | 5. V. | 1985 | T N |
| 〔真庭郡〕 | | | | |
| 新庄村野土路 | | | 2. VI. | 1968 ¹³⁾ |
| タ 田浪 | | | 18. V. | 1969 ¹³⁾ |
| タ 長床 (510m) | 4 ♂ | 15. V. | 1982 | A O |
| タ 四十曲峠 (610m) | 2 ♂ | 15. V. | 1982 | A O |
| タ 中谷 (520m) | 3 ♂ 1 ♀ | 15. V. | 1982 | A O |
| 川上村明連溪 | | | 16. V. | 1954 ⁵⁾ |
| タ タ ■ | 1 ♂ | 24. V. | 1964 | 重井 |
| タ 下徳山德山 | 蛹:写真 | 10. V. | 1980 ¹⁸⁾ | |
| タ 宗利 (470m) | | | | |
| | 多数目撃 | 15. V. | 1983 | A O |
| タ 上徳山中原 (500m) | 4 ♂ | 31. V. | 1981 | KW |
| タ 延助 (500m) | 5 ♂ | 15. V. | 1983 | T N |
| タ タ タ | 2 ♂ 1 ♀ | 15. V. | 1983 | A O |

川上村上福田正富 (460m)
 1 ♂ 3 ♀ 31. V. 1981 KW
 夕 夕 堂の前 (470m)
 27 ♂ 2 ♀ 15. V. 1983 TN
 八束村中福田 (460m)
 1 ex. 目撃 15. V. 1983 AO
 夕 下長田原林 (410m) 3 ♂ 15. V. 1983 AO
 夕 夕 柄の木 (400m)
 1 ♂ 15. V. 1983 AO
 中和村真加子 (410m) 2 ♂ 1 ♀ 15. V. 1983 AO
 夕 下和一の茅 (550m) 2 ♂ 15. V. 1983 AO
 夕 植杉渓谷 (650m) 2 ♂ 15. V. 1983 TN
 美甘村美甘 (440m) 2 ♂ 1 ♀ 15. V. 1982 AO
 夕 田口湯谷下 (360m)
 1 ex. 目撃 8. V. 1983 AO
 湯原町社 (400m) 3 ♂ 16. V. 1982 KW
 夕 見明戸 (380m) 3 ♂ 8. V. 1983 AO
 夕 田羽根 (480m) 1 ♂ 15. V. 1983 AO
 夕 久見 (330m) 2 ♂ 15. V. 1983 AO
 勝山町神庭²⁰⁾
 夕 夕 25. V. 1954²⁸⁾
 夕 夕 1 ex. 目撃 14. V. 1957¹¹⁾
 夕 夕 1 ♀ 25. V. 1959³³⁾
 夕 夕 (210m) 1 ♂ 10. V. 1963 AO
 夕 夕 5 ♂ 10. V. 1980 AO
 夕 夕 6 ♂ 1 ♀ 10. V. 1980 TN
 夕 夕 2 ♂ 1 ♀ 9. V. 1981 AO
 夕 夕 7 ♂ 1 ♀ 5. V. 1982 KW
 夕 夕 (370m) 3 ♂ 4. V. 1982 AO
 夕 若代 1 ♂ 19. V. 1977¹⁸⁾
 夕 月田本 1 ♂ 19. V. 1977¹⁸⁾
 夕 夕 (220m) 2 ♂ 4. V. 1982 AO
 夕 夕 延河内 (250m)
 6 ♂ 10. V. 1980 TN
 夕 勝山 (180m) 1 ex. 目撃 9. V. 1981 AO
 夕 月田桜 (320m) 1 ♂ 4. V. 1982 AO
 夕 月田 (260m) 1 ♂ 4. V. 1982 AO
 夕 岩井畠末の森 (430m)
 2 ♂ 5. V. 1982 AO
 夕 山久世 (240m) 6 ♂ 1 ♀ 5. V. 1982 KW
 夕 神代 (300m) 4 ♂ 5. V. 1983 TN
 夕 寺河内 (270m) 1 ♂ 5. V. 1983 TN
 夕 夕 (350m) 2 ♂ 8. V. 1983 AO
 久世町目木 卵;写真 10. V. 1980¹⁹⁾
 夕 夕 卵;写真 14. V. 1980¹⁹⁾
 夕 夕 (260m) 1 ♂ 5. V. 1982 KW

久世町目木 (260m) 1 ♂ 8. V. 1983 AO
 夕 余野下 (240m) 1 ♂ 6 ♀ 16. V. 1982³³⁾ KW
 落合町関 1 ♂ 5. V. 1978¹⁸⁾
 夕 佐引 (230m) 2 ♂ 4. V. 1982 AO
 夕 夕 1 ♂ 1 ♀ 5. V. 1982 KW
 夕 夕 3 ♂ 8. V. 1983 KW
 夕 夕 千束 (310m) 4 ♂ 3. V. 1982 TN
 夕 夕 夕 5 ♂ 4. V. 1982 AO
 夕 別所粟村 (480m) 1 ♂ 5. V. 1982 AO
 [苦田郡]
 富村—— 18. VII. 1952²⁸⁾
 夕 富仲間高橋 (320m) 4 ♂ 16. V. 1982 KW
 夕 富東谷渡 (370m) 4 ♂ 1 ♀ 16. V. 1982 KW
 夕 夕 馬場 (400m)
 5 ♂ 1 ♀ 16. V. 1982 KW
 夕 夕 重定 (460m) 3 ♂ 8. V. 1983 AO
 夕 富西谷大倉 (390m) 3 ♂ 16. V. 1982 KW
 夕 夕 夕 1 ♂ 15. V. 1983 TN
 奥津町—— 13. V. 1976¹⁶⁾
 夕 市場 30. IV. 1957²⁸⁾
 夕 泉山 18. V. 1958²⁸⁾
 夕 夕 * 1 1 22. V. 1960 富松
 夕 羽出 (村) ??
 夕 羽出 26. V. 1976¹⁶⁽¹⁷⁾
 夕 夕 小山 (330m) 2 ♂ 23. V. 1981 AO
 夕 細田 4 ♂ 20. V. 1981 KO
 夕 女原 2 ♂ 20. V. 1981 KO
 夕 西屋 (250m) 2 ♂ 23. V. 1981 AO
 夕 井坂 (240m) 2 ♀ 23. V. 1981 AO
 夕 夕 1 終令幼虫 17. IV. 1983 AO
 夕 下斎原 ♀;写真 31. V. 1981¹⁹⁾
 夕 夕 幼虫;写真 10. IV. 1982¹⁹⁾
 夕 夕 前蛹;写真 15. IV. 1982¹⁹⁾
 夕 夕 ♀;写真 8. V. 1982¹⁹⁾
 夕 夕 上原美土地 (440m)
 2 ♂ 23. V. 1981 AO
 夕 箱 (270m) 1 ex. 目撃 8. V. 1983 AO
 夕 久田下原 (250m)
 1 ex. 目撃 11. V. 1985 AO
 夕 河内 (260m) 1 ♂ 2 ♀ 11. V. 1985 AO
 上齋原村—— 26. V. 1957²⁸⁾
 夕 石越 25. V. 1957¹¹⁾
 夕 夕 (540m) 2 ♂ 23. V. 1981 AO
 夕 三ヶ上* 1 ♂ 17. V. 1971 分島
 夕 平作原 4 ♂ 20. V. 1981 KO

上齋原村平作原 (520m)

1 ex. 目撃 23. V. 1981 AO

タ 岩崎谷スキー場 (520m)

5 ♂ 23. V. 1981 AO

タ 恩原 (780m) 1 ♂ 23. V. 1981 AO

タ 宮ヶ谷 (750m) 5 ♂ 23. V. 1981 AO

鏡野町越畠²⁵⁾タ 泉山中腹 (岩屋より登る) 10. VI. 1957¹¹⁾

タ 岩屋泉山山麓 (500m)

4 ♂ 2 ♀ 26. V. 1961 AO

加茂町奥津川山 (炭焼山辺) 10. VI. 1930⁶⁾タ 河井 17. V. 1957²⁶⁾タ 物見峠 13. V. 1976¹⁶⁾タ 西黒木 2 ♂ 7. V. 1977¹⁸⁾タ 戸賀 2 ♂ 9. V. 1977¹⁸⁾

タ 炭山 (370m) 3 ♂ 18. V. 1980 TN

タ 五輪原 (仏香) 1 ♂ 20. V. 1982 KO

タ 夕暮 1 ♂ 20. V. 1982 KO

阿波村—— 13. VI. 1961²⁸⁾

タ 尾所 2 ♂ 20. V. 1982 KO

タ 大ヶ山 3 ♂ 20. V. 1982 KO

タ 大杉 1 ♂ 5. VI. 1983 KO

タ 落合渓谷 (540m)

2 exs. 目撃 5. VI. 1983 KW

タ 深山渓谷 (640m)

1 ♂ 1 ♀ 5. VI. 1983 KW

〔津山市〕

上横野 17. V. 1964²⁹⁾

〔勝田郡〕

勝北町奥津川 2 ♂ 18. V. 1980 KO

奈義町那岐山²⁰⁾タ 滝山山麓 1 ♀ 29. V. 1977⁹⁾タ タ 1 ♂ 5. VI. 1977⁹⁾タ タ 3 ♂ 18. V. 1980⁹⁾

タ タ (400~480m)

5 ♂ 18. V. 1980 TN

タ タ 1 ♂ 5. VI. 1982 TN

タ タ (500m) 1 ♂ 5. VI. 1983 KW

タ 高円 (那岐山東南麓: 500m)

11 ♂ 3 ♀ 18. V. 1980 TN

タ タ 9 ♂ 1 ♀ 18. V. 1980 KO

タ 関本 1 ♂ 1 ♀ 24. V. 1984 KO

勝田町真殿 (290m) 8 ♂ 1 ♀ 8. V. 1982 TN

タ タ 3 ♂ 24. V. 1984 KO

タ 梶並 5 ♂ 1 ♀ 24. V. 1984 KO

〔英田郡〕

西粟倉村—— 10. V. 1964²⁸⁾タ タ 13. V. 1974¹⁵⁾タ 塩谷 (400m) 9 ♂ 28. V. 1972²⁶⁾

タ 影石 (360m) 6 ♂ 2 ♀ 12. V. 1974 TN

タ 猪之部 (370m) 1 ♂ 12. V. 1974 TN

タ タ 2 ♂ 13. V. 1977¹⁸⁾タ 新田 6 ♂ 1 ♀ 13. V. 1977¹⁸⁾

東栗倉村後山 (集落: 440m)

10 ♂ 1 ♀ 10. V. 1981 KO

タ タ 31 ♂ 1 ♀ 10. V. 1981 TN

タ タ 14 ♂ 3 ♀ 10. V. 1981 KW

タ 太田 蜂: 写真 27. IV. 1982¹⁹⁾大原町—— 12. V. 1974¹⁵⁾

タ 江ノ原 (260m) 1 ♀ 12. V. 1974 TN

美作町林野⁵⁾⁽²⁷⁾

タ 海内 14 ♂ 1 ♀ 5. V. 1982 KO

タ タ 神場 (80m)

23 ♂ 1 ♀ 8. V. 1982 TN

タ 三倉田 7 ♂ 5. V. 1982 KO

タ 大原 6 ♂ 1 ♀ 9. V. 1982 KO

英田町福本 14. V. 1967³⁰⁾

タ タ (60m) 1 ♂ 4. V. 1979 TN

タ タ 2 ♂ 10. V. 1981 TN

タ タ 3 ♂ 13. V. 1981 AO

タ タ 1 ♂ 8. V. 1982 TN

タ 奥 1 ♂ 1 ♀ 8. V. 1982 若櫻

タ タ 2 ♂ 3. V. 1983 若櫻

タ タ 1 ♂ 14. V. 1984 若櫻

〔川上郡〕

備中町安田 (480m) 1 ♂ 12. V. 1985 KW

タ 西油野加合木 (250m)

1 ♂ 12. V. 1985 KW

タ タ 佐原目 (360m)

2 ♂ 26. V. 1985 近藤

タ 西山六日 (520m) 1 ♂ 12. V. 1985 KW

川上町穴門山神社 1 ex. 目撃¹¹⁾⁽¹³⁾

タ タ 1 ex. 目撃 11. V. 1985 脇本

〔上房郡〕

北房町下皆部新田 1 ♂ 26. V. 1985 河田

〔久米郡〕

久米町大井西²⁵⁾

タ 坪井下 (170m) 2 ♂ 5. V. 1985 AO

タ 坪井上福本 (270m) 2 ♂ 8. V. 1985 AO

旭町北 (360m) 6 ♂ 8. V. 1985 AO

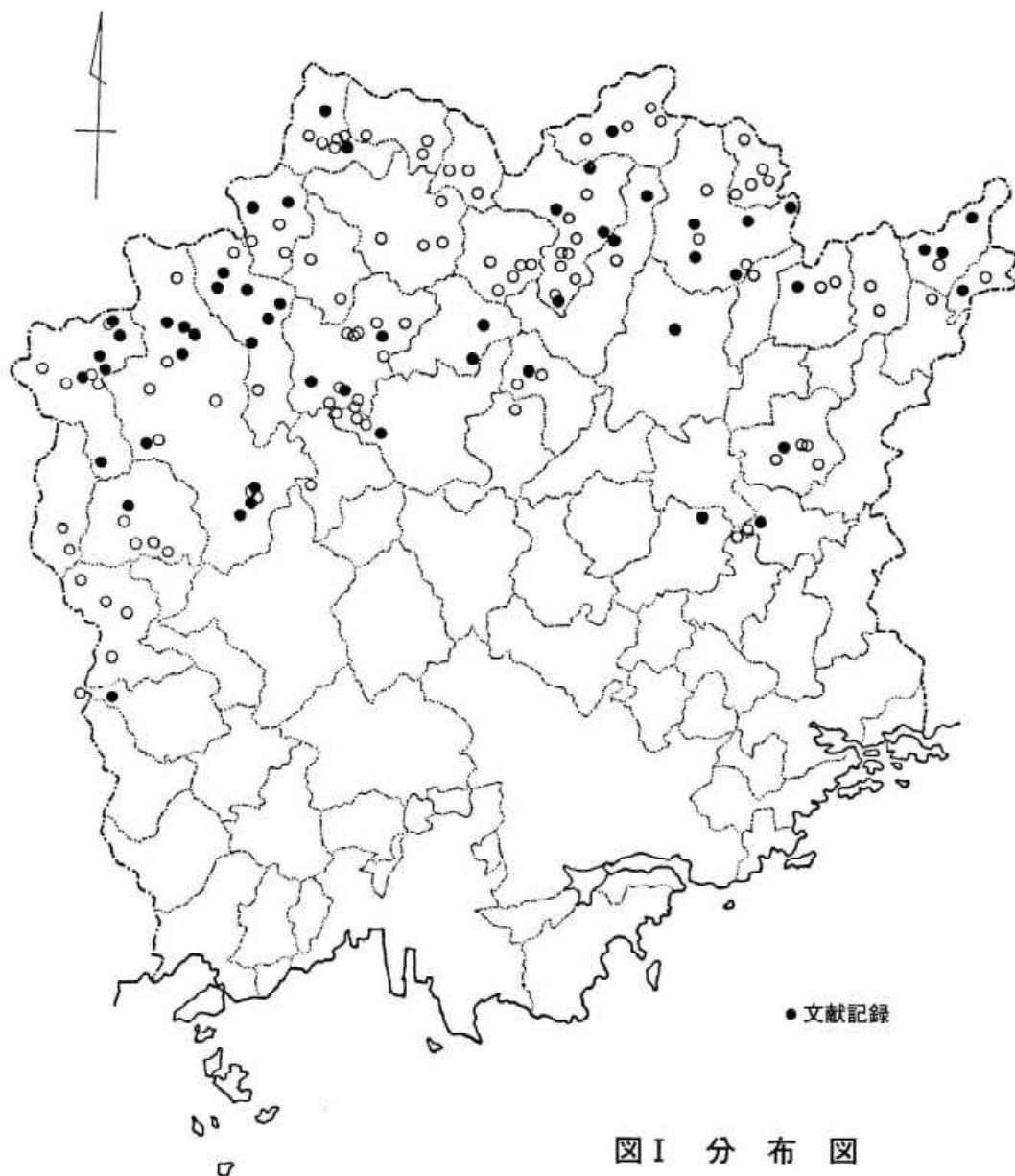
タ タ 1 ♂ 4 ♀ 11. V. 1985 AO

| | |
|--------|-------------------------------|
| [赤穂郡] | |
| 吉井町河原屋 | 1 ♂ 5. V. 1979 ¹⁰⁾ |
| [和気郡] | |
| 佐伯町西栄山 | 1 ♂ 1 ♀ 8. V. 1982 若楓 |
| タマ | 1 ♀ 9. V. 1985 若楓 |

分布の概要

文献により既に報告されている産地と今回報告する産地を合わせてプロットすると図Iの分布図のとおりである。なお、分布資料に掲げた記録のうち、富村²⁰⁾・

奥津町¹⁶⁾・羽出村⁷⁾・上斎原村²⁰⁾・阿波村²⁰⁾・西栗倉村¹⁵⁾²⁰⁾及び大原町¹⁵⁾については場所が判然としないため、また那岐山²⁰⁾については松野²⁰⁾の指摘するとおり場所が判然としないうえ岡山県側のことか鳥取県側のことか明確でないため、さらに新見市林¹³⁾については原文献²¹⁾を参照したところ「友人林氏は新見にて採集(北部)」とあり編集上のミスと思われるが場所が判然としないため、いずれも今回の分布図のプロットからは除外した。また、川上町穴門山神社¹²⁾¹⁴⁾については、分布南限にあたるため目撃記録(いずれも出所は



図I 分布図

同じ。山地治氏目撃。) ではどうかと思われたが、脇本氏により再度目撃され、筆者も川上町から広島県側へわずか200m程度の所で次の記録を持っており、その分布は確実と思われる。今回文献記録としてプロットした。〔参考記録; 広島県神石郡油木町花済(550m), 1985. 12. V. K.W.]

まず河川に着目してみると(図IIの河川概念図参照), 吉井川水系では吉井川本流・吉野川・梶並川・加茂川・香々美川とともにその上流部には広く分布しており、特に吉井川本流域では奥津町から上斎原村に至る

まで連続的に分布することが確認されている。また、吉野川流域においてはかなり南部(英田町・吉井町・佐伯町)にも分布する。

旭川水系では、目木川・新庄川流域のほぼ全域と旭川本流域の勝山町以北で連続的な分布が確認されており、それと南接して落合町・久米町・旭町の記録がある。しかし、それ以南では未だ発見されておらず、前述の吉井川水系及び次に述べる高梁川水系に比較すると、本種の分布はかなり北へ偏っている。

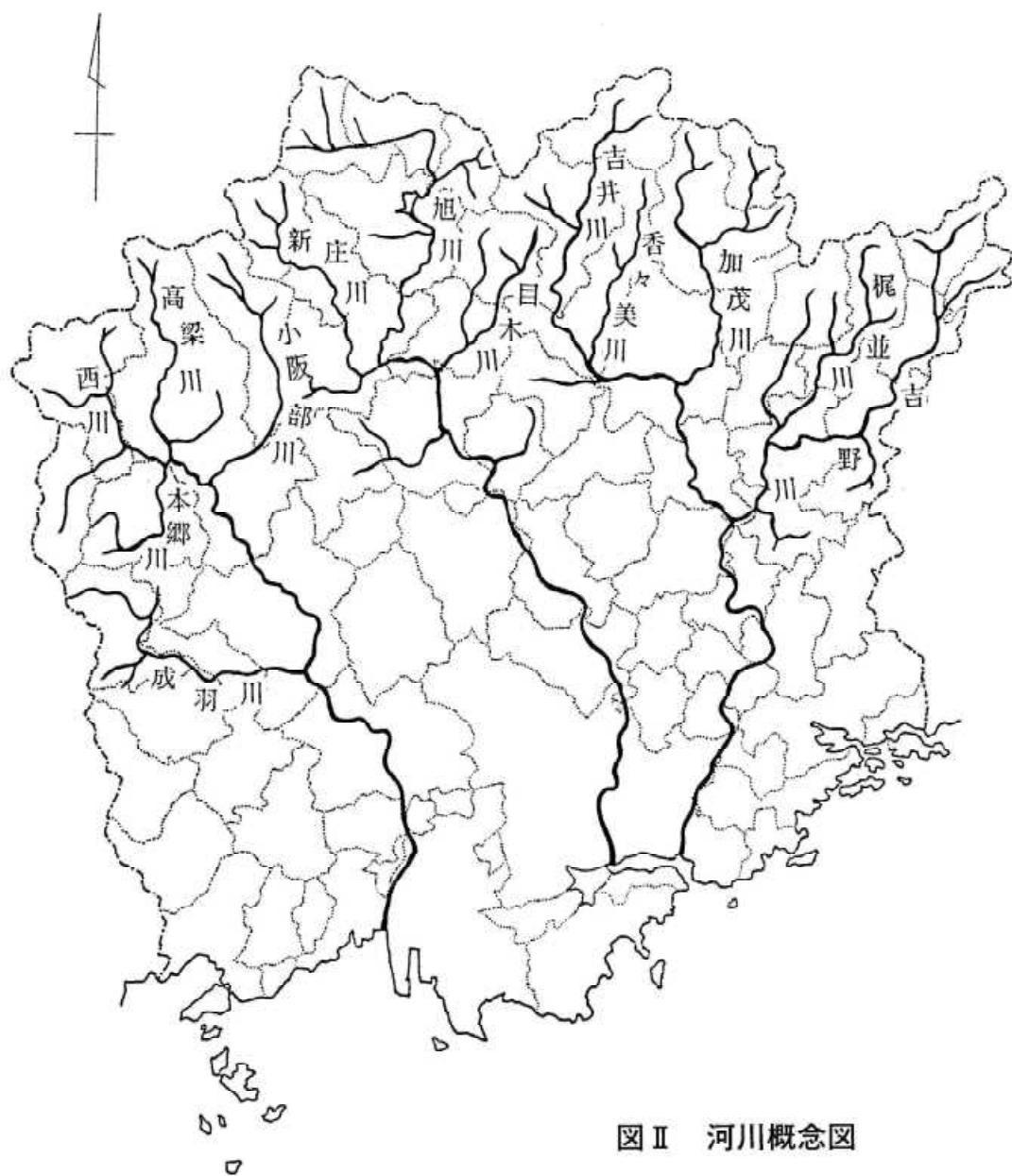


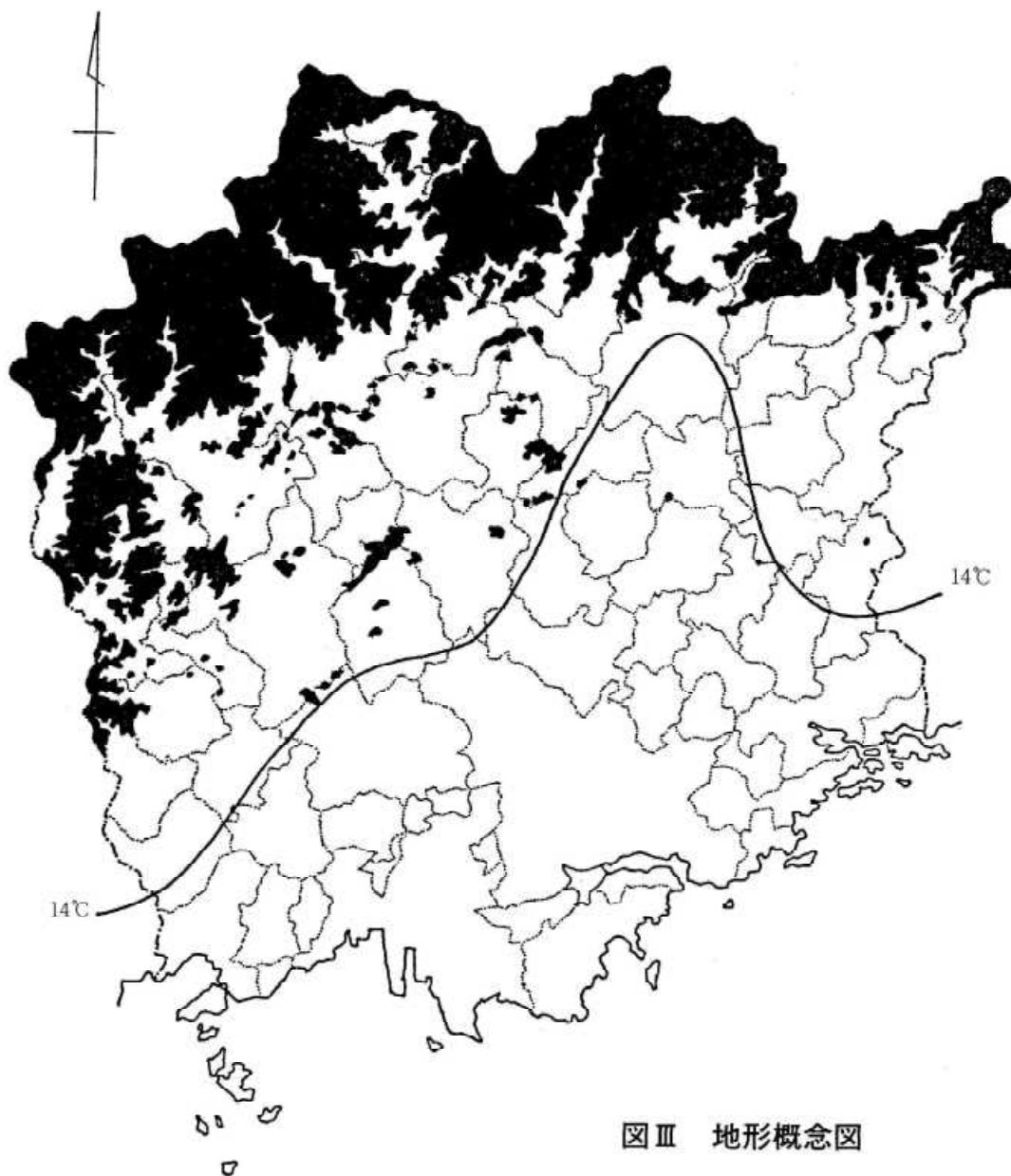
図 II 河川概念図

高梁川水系では、高梁川本流の新見市中心部以北、小阪部川・西川・本郷川流域のはば全域で連続的な分布が確認されている。成羽川上流部の備中町・川上町にかなり南部の記録がある。また、これらと別に新見市草間周辺にやや飛び離れた産地があり興味深い。

次に地形との関連でみると、中国山地が小山塊に分断されていることは既に述べたが、これらの山塊はおおむね後山・那岐山・大ヶ山・花知ヶ仙・人形仙～山乗山・星山・蒜山・毛無山・雄山・三国山～道後山の順に並んでおり、それらの間には三大河川及びその支

流の侵食による谷底平野的な山間盆地として東粟倉・阿波・加茂・越畠・上齋原・羽出・富・美甘一新庄・大井野・千屋・新郷等の盆地が存在し、また火山地形としての蒜山盆地が存在する。この地域における本種の分布は、いわゆる「山」の部分には産地が少なく、それぞれの盆地が分布の中心となっており、いずれの地にも広く分布する。

美作～新見の盆地列における分布もある程度確認されているが、盆地部における分布については北条(1970)により分布の制限要因として盆地特有の夏の



図III 地形概念図

高温が影響して盆地中央部には分布が制限されることが指摘されており、岡山県においても美作の江見盆地を除き、津山・日木・久世・勝山・大佐・新見の各盆地では、盆地底付近からの記録はほとんどなく、盆地を取り巻くように分布する傾向がある。もっとも県内における盆地は、津山盆地を除けば小規模で、しかも盆地底周辺は市街化されており、そのことの影響の方が大きいのかも知れない。

吉備高原においては、東部及び西部ではかなり南部にまで分布することが明らかにされているが、中央部からはまだそうした記録はない。

ところで、岡山県を標高500mで区分すると図Ⅲの地形概念図のようになる。黒く塗り潰した箇所が標高500m以上の地域の概略である。これには中国山地と前述の吉備高原の高原状山地がほぼ該当する。これを図Ⅰの分布図と対比させると、県南東部を除き、その境界線を中心に分布記録が集中していることが分る。また、図Ⅲに示した実線は、年平均気温14℃のライン⁸⁾である。北条²⁴⁾の引用したように、分布の制限要因としての気温は、卵の越夏をさまたげると考えられる最高気温であろうが、残念ながら筆者の手元には県内の最高気温に関する資料がない。従って平均気温で考えざるを得ないが、おおよかな傾向として、県中央部で北に広がり東部・西部で南に広がる傾向の見られることは読みとれそうである。

分布の南限は現在では、東部で佐伯町西栄山、中央部で落合町閑～旭町北、西部で川上町穴門山神社となっている。隣接する兵庫・広島両県の岡山県と接する付近の南限を見ると、兵庫県では佐用郡上月町秋里～揖保郡新宮町下筋原付近とされており³¹⁾、岡山県東部の分布南限とほぼ一致するか、むしろ岡山県側の方が若干南部にまで分布を広げている。次に広島県を見ると、福岡ほか（1983）によって広島県東部の蝶がまとめられた中で、本種の分布は神石郡神石町・油木町・豊松村とされており、これも岡山県西部の分布南限とほぼ一致する。

以上、岡山県におけるウスバシロチョウの分布の概要を述べてきたが、まとめてみるとおおむね次のとおりである。

全体の傾向としては標高500mを中心にして、津山盆地を除く吉備高原より北の地域においては各河川流域の侵食部（=比較的低標高地）にはほぼ普遍的に分布し発生個体数も多く、吉備高原においては西部の高原状山地にはかなり広く分布するものの南へ行くほど個体数は少なくなり、吉備高原中央部から南東部にかけての侵食小起伏面では著しく分布が制限され、特に

中央部においては気温の関係もあり分布は相当北へ偏ったものとなる。

また、採集記録は5月に集中しており、早いものは4月末から発生し、遅いもので6月中旬まで生き延びるようである。富村²⁵⁾の記録は異常に遅く、データの間違いか編集上のミスと思われる。

注目される記録は美作町林野周辺・英田町福本周辺・新見市草間周辺のもので、やや飛び離れた産地となっており、他産地との missing link の発見が望まれる。また津山市上横野²⁶⁾の記録は、津山盆地の中心である津山市からの唯一の記録であり、その再確認と周辺の調査が期待される。

なお、作東町・勝央町・中央町・棚原町・高梁市・成羽町等については十分な調査ができなかったので、今後の課題となっている。

変異について

筆者は、この報告にあたり県内各地産の標本約400個体を検したが、それを基礎として、本種の変異について各河川流域ごとに整理すると次のとおりである。被検個体の約90%が♀であるため、特に明記しない限り♀の変異についての記述と思っていただきたい。♀の変異については被検個体が少ないため地理的変異を考えるには不十分なので、比較的個体数が多く（最低4個体）検した流域のものについて、その個体変異の幅を示すにとどめた。主として前翅亞外縁の黒色鱗

（A）の発達の程度に着目し、後翅外縁の黒色鱗（B）の発達の程度、前翅中室内の黒色鱗（C）の状況及び後翅内縁の黒帯（D）の発達の程度を考慮した。ただし、統計的・計量的手法は用いておらず、筆者の検した岡山県産の個体における相対的なものである。

まず吉井川水系だが、吉野川上流部（東・西粟倉村）ではAの発達の顕著な個体が多く、標準的な個体で写真1、黒い個体で写真2程度である。Bのよく発達する個体〔写真3〕や、逆にAの発達の悪い個体〔写真4〕も見られるが、これらは少ない。♀の変異の幅は写真43～写真44である。吉野川中流部（美作町）でもAはよく発達し、標準的な個体は写真5、黒い個体で写真6程度である。しかし、後山産の個体に比べると全体的には若干Aの発達の悪い個体が多い。吉野川下流部（英田町）では標準的な個体で写真7、黒い個体で写真8程度で、やはりAは発達する。梶並川上流部（勝田町・奈義町）でもAはかなり発達するが、最も黒くて写真9程度であり、写真10のようにDの発達の悪い個体も見られる。また、奈義町産の個体は勝田町産の個体に比べ、前翅は若干白くなる傾向がある。♀

の変異の幅は写真45～写真46である。吉井川上流部(奥津町・上斎原村)でも写真11のようにAはほとんどの個体で鮮明に現われ、上斎原村の個体〔写真12〕はよく発達する。その反面、写真13のようにDの発達のやや悪い個体も見られ、写真14³²は筆者が検した岡山県産の標本の中では最も白い♀である。

次に旭川水系では、日木川流域(富村・久世町)では写真15のようにAは鮮明に現われるが、写真16のようにDの発達の若干悪い個体が多く見られる。久世町余野下産の♀については、その白化個体を既に報告³³しているが、同一産地内の個体変異の幅の大きさを示すものとして、最も黒い♀〔写真47〕と最も白い♀〔写真48³³〕を掲げる。新庄川流域(美甘村・新庄村)では、美甘村の個体は写真17のようにAはかなり発達するが、新庄村の個体では写真18のように比較的発達が悪くなる。旭川上流部(川上村等)では、川上村の個体に写真19のようにAがほぼ消失するか又は写真20のようにAの発達の悪い個体がかなりの割合で含まれる。最も黒くて写真21程度である。♀の変異の幅は写真49～写真50である。八束村・中和村・湯原町の個体は川上村の個体に比べ、若干Aが発達する。旭川中流部(勝山町)では、神庭が古くから知られた産地だが、標準的には写真22程度で、Aはやや発達するがDの発達の若干悪い個体が多い。稀に写真23のようにCの発達の悪い個体や写真24のようにAの発達の悪い個体が見られる。落合町佐引から千東にかけては、Cの発達の悪い個体〔写真25、26〕が比較的多く見られるが、写真27のような個体も少なくない。旭町北産の♀の変異の幅は写真51～写真52である。

最後に高梁川水系だが、小阪部川流域(大佐町)ではAの発達はかなり悪くなるが、中には写真28のようにBのやや発達した個体も見られる。高梁川上流部(新見市北部)では千谷実谷以北の個体群でかなりAが発達するものの、全体的にAはあまり発達せず、標準的な個体で写真29程度で、写真30のようにAが消失する個体や写真31のようにDの発達の悪い個体も見られる。西川流域(神郷町)ではおおむね新見市北部の個体群と同程度であるが、Aの消失する割合はこの流域の方が多い。最も黒い個体で写真32程度、白い個体で写真33程度である。♀の変異の幅は写真53～写真54である。本郷川流域(哲多町)ではAは写真34のように多くの個体で淡く現われるか又は消失し、Dの発達の悪い個体〔写真35、36〕もかなり見られる。成羽川上流部(備中町)では、安田産の個体〔写真37〕は比較的白い部類だが、個体数が少ないのではっきりしない。新見市草間周辺では個体変異の幅が極端で、標準的に

は写真38程度だが、写真39から写真40までその差は大きい。しかし一般的に黒い個体は少なく、写真41のようにCの未発達の個体や写真42のようにDの発達の悪い個体の方が目につく。

以上、各河川流域に沿って本種の変異の概要を述べてきたが、岡山県全体をみるとおおむね次のとおりである。

前翅亞外縁の黒色鱗は、岡山県東部(特に北東部)の個体群でよく発達し、東粟倉村後山産の個体群で著しい。一般的に西に行くに従い発達の悪い個体が見られるようになるが、連続的なものではなく、おおまかに言って西の方が白いという程度である。前翅亞外縁が最も白化する傾向を持つのは哲多町産の個体群であるが、これも産地を特定できる程のものではなく、他産地においても同程度の個体はかなり見られる。

後翅外縁の黒色鱗が発達する個体は、岡山県においては比較的稀で、地理的変異としては認められず、各地で時折見られる程度である。

前翅中室内の黒色鱗の未発達の個体は、落合町でかなり得られているが、同地においても個体変異は著しく、他産地でも得られている。しかし、県中央部以西で多く見られる傾向がある。

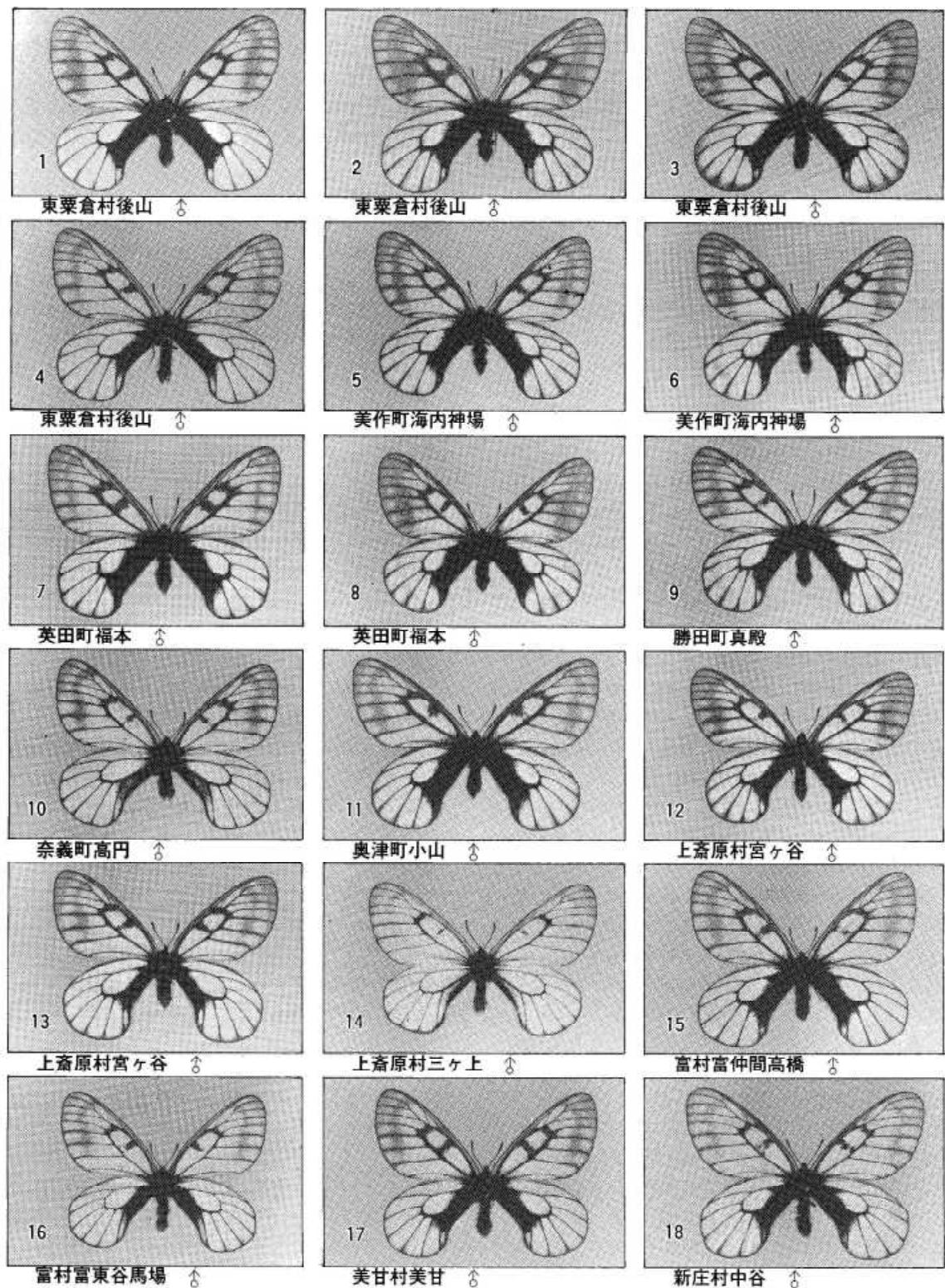
後翅内縁の黒帯は、前翅亞外縁の黒色鱗の発達と同様の傾向があり、県北東部で最も発達し、県中央部以西でやや未発達の傾向を示すものの、比較的不安定で地理的変異として認められる程のものではない。

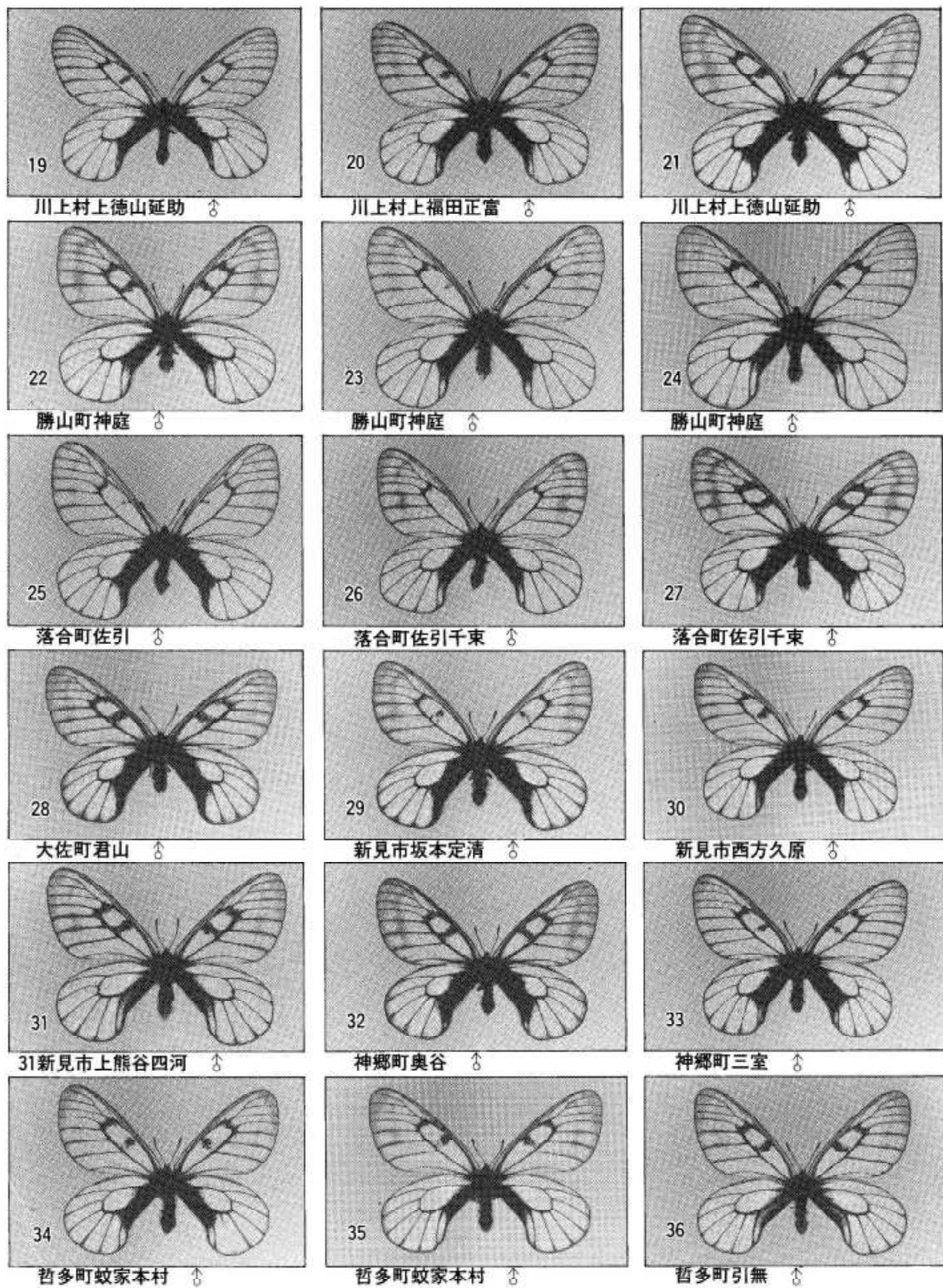
やはり、岡山県という小さなエリア内で本種の地理的変異を考えること自体が無理なようで、総合的に見れば県東部で黒くなる傾向があり、県西部で白くなる傾向があるものの、全体としては個体変異の幅が地理的変異の幅を上回っており、産地の特定をできる程のものではないということができる。

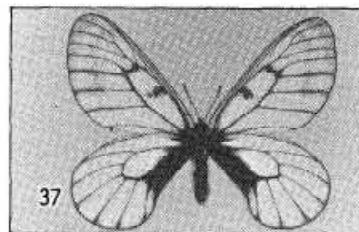
その他

筆者の力量不足のため、折角集積した資料を十分には活用していない部分も多いと思われる。特に筆者は生態面に関しては無知にも等しいため、この方面は一切割愛せざるを得なかった。また、分布の概要についても今後の調査で大きく変わることが予想される。例えば垂直分布の上限についての調査等は未実施のままである。

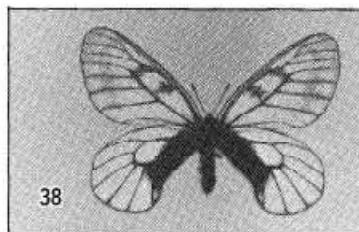
従って、この報告を第一歩として、同好諸氏の手で、県内のウスバシロチョウについての分布・変異・生態等に関する新知見が、より多く発表され、蓄積され、より完全な形になることを望むものである。



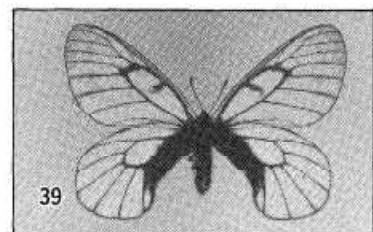




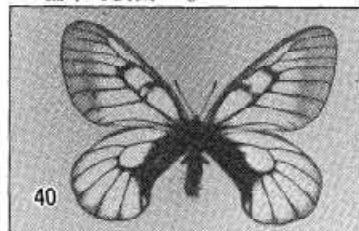
備中町安田 ♂



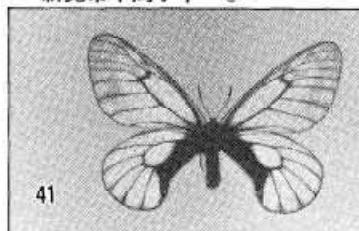
新見市草間小中 ♂



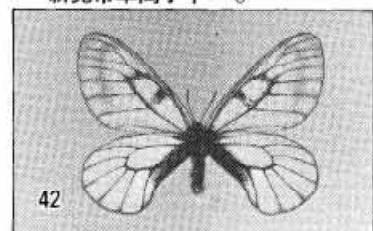
新見市草間小中 ♂



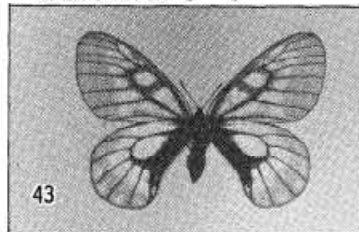
新見市草間小中 ♂



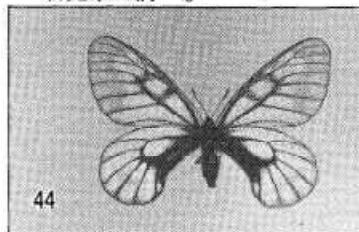
新見市土橋 ♂



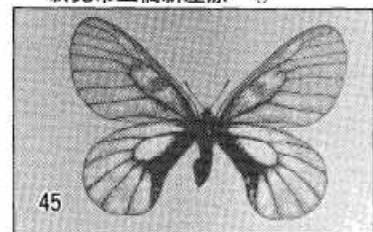
新見市土橋新屋原 ♂



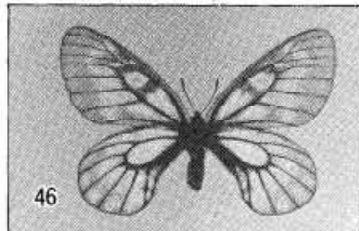
東粟倉村後山 ♀



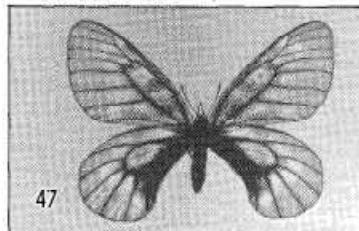
東粟倉村後山 ♀



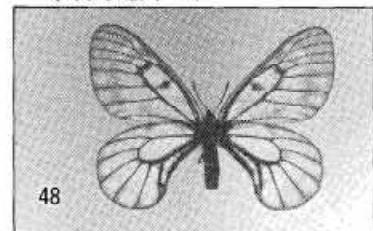
奈義町滝山 ♀



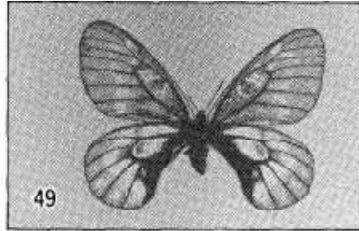
奈義町高円 ♀



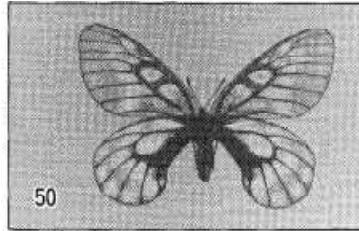
久世町余野下 ♀



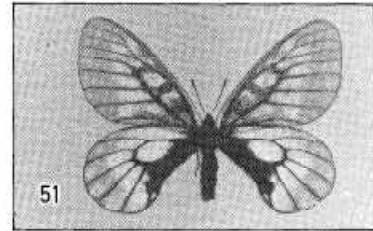
久世町余野下 ♀



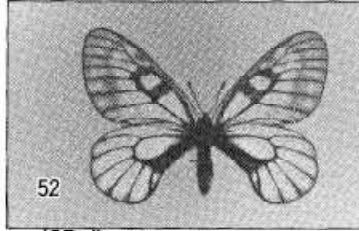
川上村上福田正富 ♀



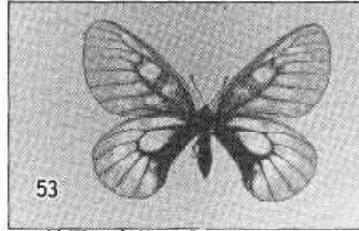
川上村上福田正富 ♀



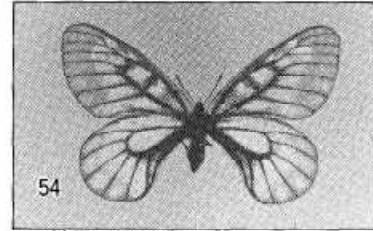
旭町北 ♀



旭町北 ♀



神郷町奥谷 ♀



神郷町上油野 ♀

参考文献

- 1) 青野孝昭 (1957) 採集メモ, すずむし 7(2): 39~40
- 2) ——— (1958) 採集メモ, すずむし 8(2): 20~24
- 3) ——— (1962) 岡山県蝶類分布資料の追加, すずむし 12(4): 38~39
- 4) 赤枝一弘 (1962) 大佐山の蝶目録, すずむし 12(3): 22~26
- 5) 安東瑞夫 (1952) 岡山県東北部の好採集地, すずむし 2(2): 1~2
- 6) 井上 立 (1956) 美作産蝶類目録, 美作の自然(2): 5~9
- 7) ——— (1958) 奥津を中心とした蝶類相, 美作の自然(4): 1~4
- 8) 岡山県環境部 (1975) 岡山県の植生
- 9) 尾閑啓吉 (1982) 滝山において採集したチョウ, すずむし(118): 52
- 10) ——— (1982) 赤磐郡でウスバシロチョウ, すずむし(118): 60
- 11) 片山豊八 (1959) 美作産蝶蛾目録, 岡山と昆虫: 1~9
- 12) 倉敷昆虫館 (1978) 岡山県の昆虫
- 13) 倉敷昆虫同好会 (1972) 岡山県の蝶, すずむし(108): 8
- 14) ——— (1977) 1977年第1回採集会のご案内, 臣牛(13): 51~52
- 15) 難波通孝 (1975) 蝶の訪花記録 (その2), すずむし(112): 41~42
- 16) ——— (1976) 蝶類野外記 (その5), 臣牛(11): 44~45
- 17) ——— (1976) 蝶類野外記 (その6), 臣牛(12): 49
- 18) ——— (1978) 岡山県産蝶類に関する知見, すずむし(115): 15~24
- 19) ——— (1983) 生態写真集岡山の蝶
- 20) 西村公夫 (1951) 岡山県北部の昆虫雑感, すずむし 1(12): 2~3
- 21) 平田信夫 (1939) 岡山県蝶類目録, 虫の世界 3(1/2): 26~27
- 22) 福岡正志ほか (1983) 広島県東部の蝶, 昆虫と自然 18(9): 33~39
- 23) 福武書店 (1978) 岡山県の地理
- 24) 北条篤史 (1970) 山梨県におけるウスバシロチョウの分布, 昆虫と自然 5(8): 6~10
- 25) 松野 宏 (1970) 近畿北部~中国地方におけるウスバシロチョウの分布, すずむし 20(1): 1~10
- 26) ——— (1975) ウスバシロチョウの変異について—鳥取市付近にみるその実態, 蝶と蛾 26(2): 77~82
- 27) 道信 順 (1962) 蝶の発生を主とした生物季節, 美作の自然(8): 18~21
- 28) 美作虫の会 (1968) 美作の昆虫(1): 1~8
- 29) 三宅誠治 (1985) 県内蝶類分布メモ, みちしるべ(5): 19~20
- 30) 山地 治 (1976) 福本のウスバシロチョウについて, すずむし(113): 40
- 31) 山本広一 (1978) 兵庫県のウスバシロチョウ, 昆虫と自然 13(7): 30~33
- 32) 山本正志 (1983) 新見市とその周辺のチョウ相, すかしば(20): 35~40
- 33) 渡辺和夫 (1984) ウスバシロチョウ♀の白化個体, すずむし(119): 20
- 34) 渡辺 毅 (1975) 阿新産蝶2種について, すずむし(112): 32
- 35) ——— (1976) 今年(1976)の蝶採集短報, すずむし(113): 30~31

岡山県より採集した甲虫類の記録

山 地 治*

岡山県下より記録の少ないとと思われる若干の甲虫類について報告する。記録の発表を許された植田千弘氏・渡辺昭彦氏、貴重な標本を下さった渡辺和夫氏・

那須敏氏・直海俊一郎氏、いつも同定等の便宜を図っていただいている遠山雅夫氏に感謝する。

学名・和名は原色日本甲虫図鑑II~IVに従い、採集者名は山地-Y・渡辺和夫-Wと略記した。

*〒700 岡山市幸町9-9

セスジムシ科

1. *Rhysodes comes* (LEWIS)

トビイロセスジムシ [写真1]

1 ex. 西栗倉村若杉峠, 28. VII. 1984, Y

オサムシ科

1. *Clivina castanea* WESTWOOD

ツヤヒメヒョウタンゴミムシ [写真2]

1 ex. 川上町磐窟渓, 12. X. 1985, W (灯火)

ゴミムシ科

1. *Coptodera japonica* BATES

コキノゴミムシ [写真3]

1 ex. 高梁市臥牛山, 24. IX. 1983, Y

2. *Lioptera erotoyloides* BATES

キノコゴミムシ [写真4]

1 ex. 岡山市竜ノ口山, 18. VI. 1985, 植田千弘採集; 1 ex. 賀陽町大久保, 24. VIII. 1985, Y

どちらも樹液に来ていた。

ゲンゴロウ科

1. *Laccophilus difficilis* SHARP

ツブゲンゴロウ [写真5]

1 ex. 芳井町石草, 19~20. VII. 1985; 1 ex. 備中町長屋, 25~26. VII. 1985; 1 ex. 新見市吉川, 27~28. VII. 1985; 1 ex. 川上町磐窟渓, 17. IX. 1985, いずれもW (灯火)

2. *L. lewisi* SHARP

ルイスツブゲンゴロウ [写真6]

7 exs. 総社市長砂, 14. IX. 1985, Y 水溜りで採集

3. *Ilybius apicalis* SHARP

キベリクロヒメゲンゴロウ [写真7]

2 exs. 岡山市松新町, 26. X. 1985, Y

ガムシ科

1. *Enochrus japonicus* (SHARP)

キベリヒラタガムシ [写真8]

1 ex. 備中町長屋, 25~26. VII. 1985, W (灯火)

2. *Berosus signaticollis punctipennis* HAROLD

ゴマフガムシ [写真9]

1 ex. 備中町長屋, 25~26. VII. 1985; 1 ex. 川上町磐窟渓, 17. IX. 1985, いずれもW (灯火)

エンマムシ科

1. *Notodoma fungorum* LEWIS

キノコアカマルエンマムシ [写真10]

1 ex. 奈義町滝山, 11. VI. 1977, Y; 1 ex. 高梁市臥牛山, 29. VI. 1980, Y

シデムシ科

1. *Nicrophorus montivagus* LEWIS

ヒメモンシデムシ [写真11]

1 ex. 西栗倉村若杉峠, 28. VII. 1984, Y

2. *Plomascopus morio* KRAATZ

コクロシデムシ [写真12]

1 ex. 奈義町那岐山, 3. VI. 1973, Y

ハネカクシ科

1. *Trigonodemus leboides* (KRAATZ)

クロモンシデムシモドキ [写真13]

1 ex. 八束村上蒜山, 15. VI. 1985, Y

2. *Oxyporus germanus* SHARP

イクチオオキバハネカクシ [写真14]

5 exs. 賀陽町吉備高原都市, 5. XI. 1983, Y

イグチ類のキノコより採集

クワガタムシ科

1. *Platycerus delicatus* LEWIS

ルリクワガタ [写真15:♂]

1 ♂, 1 ♀, 西栗倉村若杉峠, 5. VI. 1985, 植田千弘採集 幹に止っていた交尾中のものを採集

コガネムシ科

1. *Protaetia lenzi* (HAROLD)

キョウトアオハナムグリ [写真16]

1 ♂, 岡山市竜ノ口山, 1. VI. 1941; 1 ♀, 同所, 28. VI. 1982, いずれも植田千弘採集

1941年当時は複数が採集されて岡山の虫屋の間でかなり話題になったそうである。その後長らく採集されていなかったが最近になって再び採集された。

(かつて英田町福本で2♀採集したことがある一標本焼失, Y)

ナガハナノミ科

1. *Epilichas monticola* NAKANE

クロツヤヒゲナガハナノミ [写真17]

1 ex. 西栗倉村若杉峠, 16. VII. 1975, Y

チビドロムシ科

1. *Cephalobyrhinus japonicus* CHAMPION

オオメホソチビドロムシ [写真18]

2 exs. 川上町穴門山, 9. VI. 1984, Y

ナガドロムシ科

1. *Heterocerus fenestratus* THUNBERG

タテスジナガドロムシ [写真19]

1 ex. 岡山市竜ノ口山, 12. IX. 1985, 植田千弘採集 (灯火)

タマムシ科

1. *Agrilus sospes* LEWIS

シロテンナガタマムシ [写真20]

1 ex. 高梁市臥牛山, 2. V. 1973, Y; 1 ex. 美作町林野, 6. V. 1973, Y

2. *A. imitans* LEWIS

ムネアカナガタマムシ [写真21]

1 ex. 加茂川町宇甘溪, 19. VI. 1974, Y

3. *A. viduus* KERREMANS

ペニナガタマムシ [写真22]

3 exs. 高梁市臥牛山, 2. VI. 1973, Y; 2 exs. 加茂川町宇甘溪, 19. VI. 1974, Y

4. *A. trinotatus* E. SAUNDERS

ミツボシナガタマムシ [写真23]

2 exs. 高梁市臥牛山, 15. V. 1971, Y

5. *A. moerens* E. SAUNDERS

ツヤケシナガタマムシ [写真24]

1 ex. 総社市宇山, 20. V. 1973, Y; 2 exs. 新見市井倉, 24. VI. 1973, Y; 1 ex. 高梁市広瀬, 24. V. 1975, Y

6. *A. friebi* OBENBERGER

クメギナガタマムシ [写真25]

1 ex. 加茂川町本宮山, 12. V. 1974, Y

7. *Anthaxia primorjensis* OBENBERGER

フチトリヒメヒラタタマムシ [写真26]

1 ex. Minagi, Okayama P. 4. V. 1984, S. Tsuyuki lgt.; 1 ex. 岡山市吉宗, 4. V. 1985, Y

8. *Coroebus rusticanus* LEWIS

ルイスナカボソタマムシ [写真27]

1 ex. 川上村蒜山, 2. VI. 1985, 植田千弘採集
ジョウカイポン科1. *Malthinus mucoreus* KIESENWETTER

クロスジツマキジョウカイ [写真28]

1 ex. 高梁市臥牛山, 2. VI. 1973, Y

ホタルモドキ科

1. *Ometes rugiceps* (LEWIS)

チビホタルモドキ [写真29]

1 ex. 奈義町滝山, 6. V. 1973, Y

マキムシモドキ科

1. *Peltastica reitteri* LEWIS マキムシモドキ [写真30]

1 ex. 八束村上蒜山, 15. VI. 1985, Y

ヒヨウホンムシ科

1. *Gibium aequinactiale* BOEGLDIEU

ニセマリヒヨウホンムシ [写真31]

1 ex. 岡山市幸町, 13. VII. 1983, Y; 1 ex. 同所, 15. IX. 1983, Y (室内にて採集)

2. *Ptinus clavipes* PANZER

ヒメヒヨウホンムシ [写真32]

1 ♂, 28. II. 1978; 1 ♀, 4. III. 1979; 1 ♂, 19. III. 1979, いずれも岡山市幸町 (筆者の自宅内で採集), Y

3. *P. senilis* KIESENWETTER

ケジロヒヨウホンムシ [写真33]

1 ex. 新庄村毛無山, 9. VII. 1983, Y

コクヌスト科

1. *Leperina tibialis* REITTER

オオマダラコクヌスト [写真34]

1 ex. 中和村山乘山, 30. VI. 1984, Y

カッコウムシ科

1. *Necrobia ruficollis* (FABRICIUS)

アカクビホソカムシ [写真35]

1 ex. 川上町磐窟渓, 12. X. 1985, W (灯火)

2. *Platytererus castaneus* (KONO)

クリイロカッコウムシ [写真36]

1 ex. 中和村山乘山, 10~11. VIII. 1985, W (灯火)
ジョウカイモドキ科1. *Anthonomadactylus eximius* (LEWIS)

コアオジョウカイモドキ [写真37: ♂; 38: ♀]

1 ♂, 備中町西油野, 23. IV. 1977, Y; 1 ♀, 哲多町荒戸山, 28. IV. 1978, Y

2. *Hypebaeus pictocollis* (KIESENWETTER)

キムネヒメジョウカイモドキ [写真39]

1 ♀, 高梁市臥牛山, 3. VII. 1974, Y

ケシキスイ科

1. *Prometopia unidentata* HISAMATSU

ウスグロキバケシキスイ [写真40]

1 ex. 新庄村毛無山, 30. VII. 1983, Y

2. *Lasiodactylus pictus* (MACLEAY)

アカマダラケシキスイ [写真41]

1 ex. 芳井町石草, 19~20. VIII. 1985, W (灯火)

3. *L. borealis* HISAMATSU

ニセアカマダラケシキスイ [写真42]

1 ♀, 備中町長屋, 25~26. VIII. 1985, W (灯火)

4. *Pocadius nobilis* REITTER

クロモンカクケシキスイ [写真42]

1 ex. 高梁市臥牛山, 14. IX. 1977, Y; 5 exs. 岡山市竜ノ口山, 15. IX. 1984, 植田千弘採集

5. *Neopalloides omogonis* HISAMATSU

タテスジマルケシキスイ [写真44]

1 ex. 奈義町滝山, 11. VI. 1977, Y

6. *Librodor binaevus* (REITTER)

ヒラタオニケシキスイ [写真45]

2 exs. 新庄村毛無山, 9. VII. 1983, Y

キスイモドキ科

1. *Byturus atricollis* REITTER

ズグロキスイモドキ [写真46]

1 ex. 津山市黒沢山, 18. IV. 1971, Y

コメツキモドキ科

1. *Anadastus atriceps* (CRUTCH)

キムネヒメコメツキモドキ [写真47]

1 ex. 英田町福本, 25. VI. 1977, Y

ヒメハナムシ科

1. *Heterolitus coronatus* (FLACH)

ベニモンアシナガヒメハナムシ [写真48]

3 exs. 備中町西油野, 25. IV. 1976, Y

オオキノコムシ科

1. *Spondotriplax horioi* NAKANE et NOBUCHI

カタモンチビオオキノコ [写真49]

1 ex. 高梁市臥牛山, 11. IX. 1982, Y

全国的に稀な種で現在までの記録も福井県・広島県・京都府等数ヶ所しかない。

テントウダマシ科

1. *Leistes decoratus* (GORHAM)

イツホシテントウダマシ [写真50]

1 ex. 高梁市臥牛山, 11. IX. 1982, Y

2. *Lycoperdina castaneipennis* GORHAM

クリバネツヤテントウダマシ [写真51]

1 ♂ 1 ♀, 川上町磐窟渓, 12. X. 1985, W (灯火)

ホソカタムシ科

1. *Cicones angustissimus* NAKANE

ナガヒラタホソカタムシ [写真52]

1 ex. 岡山市高松, 4. IV. 1982, 材採取→IV. 1982羽脱, Y

クチキムシ科

1. *Mycetochara collina* LEWIS

ヨツボシヒメクチキムシ [写真53]

1 ex. 高梁市臥牛山, 6. VI. 1976, 直海俊一郎採集; 5 exs. 同所, 1. VI. 1985, Y

キノコムシダマシ科

1. *Pisenus rufitarsis* (REITTER)

クロコキノコムシダマシ [写真54]

9 exs. 高梁市臥牛山, 13. XI. 1976, Y

ケヤキ樹皮下より採集

ナガクチキムシ科

1. *Diraea erotooides* LEWIS

フタオビホソナガクチキ [写真55]

1 ex. 中和村山乘山, 10~11. VIII. 1985, W; 1 ex. 加茂町倉見, 22~23. VIII. 1985, W いずれも灯火

2. *D. dentatomaculata* LEWIS

ハガタホソナガクチキ [写真56]

1 ex. 高梁市臥牛山, 11. V. 1985, Y

3. *Hira humeralis* HAYASHI

カタアカナガクチキ [写真57]

1 ex. 川上村蒜山大山有料道路, 25. VIII. 1984, 那須敏採集

カミキリモドキ科

1. *Asclera igai* NAKANE

イガメスグロカミキリモドキ [写真58]

1 ♂, 西粟倉村若杉峰, 28. VIII. 1984, Y

アリモドキ科

1. *Anthelephila cribripes* (MARSEUL)

ケオビアリモドキ [写真59]

1 ex. 岡山市中原橋 (旭川右岸), 29. VI. 1985, Y 増水後のゴミの中から採集

2. *Anthicus fugiens* MARSEUL

アカホソアリモドキ [写真60]

1 ex. 新庄村毛無山, 9. VII. 1983, Y

3. *A. perileptooides* LEWIS

ヒラタホソアリモドキ [写真61]

1 ex. 総社市水内橋 (高梁川右岸), 23. III. 1985, Y

マメゾウムシ科

1. *Bruchus pisorum* (LINNÉ)

エンドウゾウムシ [写真62]

1 ex. 岡山市高松, 22. V. 1974, Y

2. *Sulcobruchus sauteri* (Pic)

ザウテルマメゾウムシ [写真63]

1 ex. 加茂川町字甘渓, 19. VI. 1974, Y

ハムシ科

1. *Gonioctena nigroplagiata* BALY

ヤツボシハムシ [写真64]

1 ex. 御津町鹿瀬, 23. V. 1981, 渡辺昭彦採集

2. *Gallerucida lewisi* (JACOBY)

ムツキボシハムシ [写真65]

1 ex. 上齋原村三ヶ上, 12. V. 1985, 渡辺昭彦採集

ヒゲナガゾウムシ科

1. *Basitropis nitidicutis* JEKEL

マダラフトヒゲナガゾウムシ [写真66]

2 exs. 新庄村毛無山, 11. VI. 1983, Y; 1 ex. 同所, 9. VII. 1983, Y

2. *Gibber brevirostris* (SHARP)

クチブトコブヒゲナガゾウムシ [写真67]

1 ex. 西粟倉村若杉峰, 7. VII. 1984, Y

3. *Androceras flavellicornis* (SHARP)

シリジロヒゲナガゾウムシ [写真68]

1 ♂ 2 ♀, 高梁市臥牛山, 15. V. 1971, Y; 1 ♀, 同所, 2. VI. 1973, Y

オトシブミ科

1. *Involvulus plumbeus* (ROELOFS)

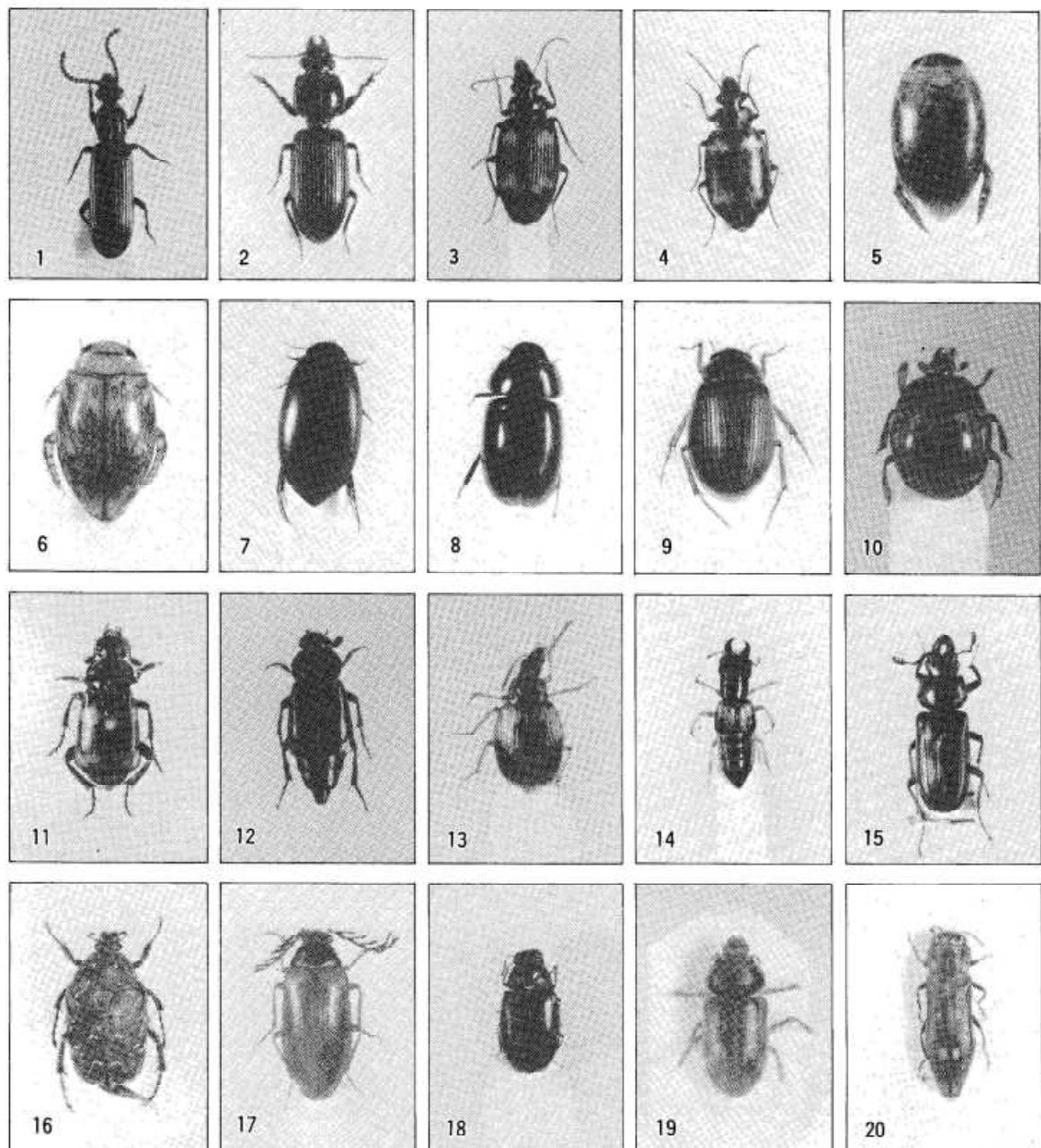
クチナガチョッキリ [写真69]

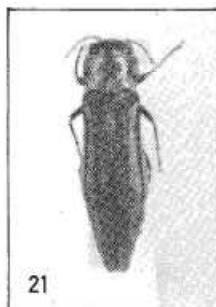
1 ex. 岡山市大原橋 (旭川河原), 14. VII. 1984,
Y

2. *Himatolabus cupreus* (ROELOFS)

ビロウドアシナガオトシブミ [写真70]

1 ex. 上齋原村三ヶ上, 31. V. 1972, Y; 1 ex.
東栗倉村後山, 4. VII. 1982, Y





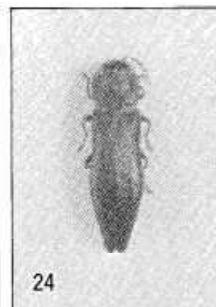
21



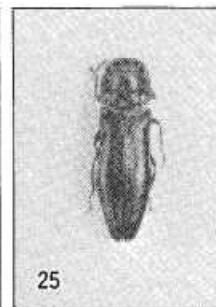
22



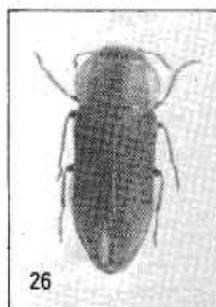
23



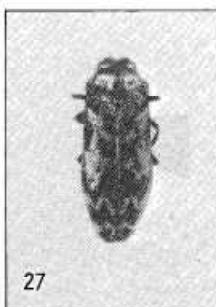
24



25



26



27



28



29



30



31



32



33



34



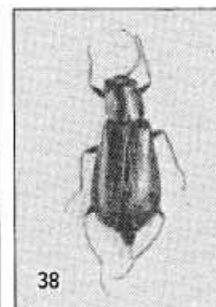
35



36



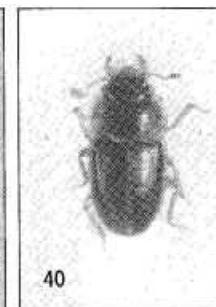
37



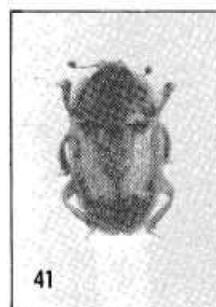
38



39



40



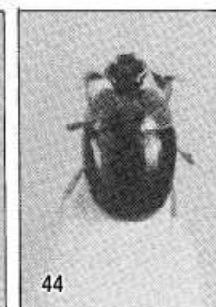
41



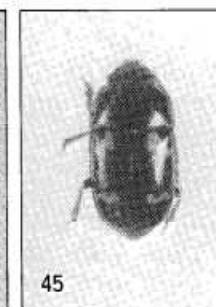
42



43



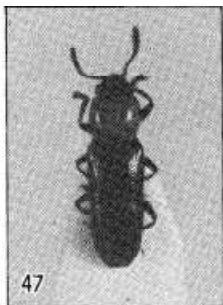
44



45



46



47



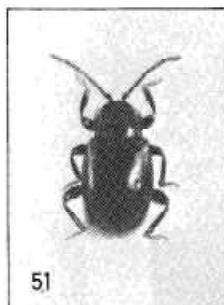
48



49



50



51



52



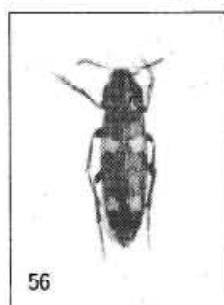
53



54



55



56



57



58



59



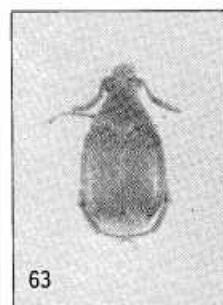
60



61



62



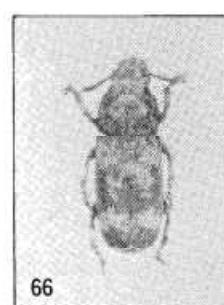
63



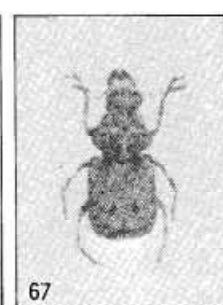
64



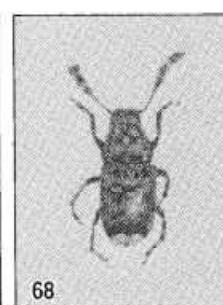
65



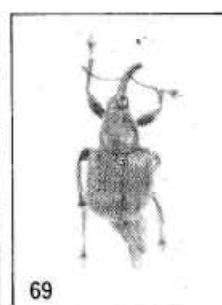
66



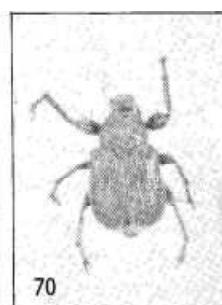
67



68



69



70

岡山県のコメツキムシ追録Ⅲ*

渡辺 昭彦

筆者は、前報までに岡山県内に産することが確認できたコメツキムシ科昆虫142種を報告したが、さらに4種の分布が確認できたので報告する。

今までに報告した中には、学名の再検討や変更をするようになった種もあるが今回はこの点には触れず、手元の未同定種と共に今後整理がつきしだい順次報告していくつもりである。

また、貴重な標本を提供していただいた竹内幸夫・渡辺和夫の両氏、標本写真を撮影していただいた山地治氏には心より御礼申し上げる。

なお、種の番号は引き続き前報からの通し番号とし、その配列等もいささか古いようにもあるが前報までに準じた。

143. *Harminius singularis hondoensis* KISHI, 1985

コガタムネスジダンダラコメツキ (Fig. 1)

真庭郡山乘山, 1♀, 10~11. VII. 1985

(渡辺和夫採集)

前報で報告した No. 137. *H. galloisi* ガロアムネスジダンダラコメツキに似ているが、小型なこと・上翅の班紋が異なることで区別はたやすい。しかし *H. nihonicus* にホンムネスジダンダラコメツキとは極めてよく似ている。上記の学名〔岸井(1985)³⁾]の適用に当たっては主に上翅端の形状で区別したが、この2種の関係については今後さらに検討を要するものと思われる。

なお、この個体は灯火採集で得られたものである。

144. *Anchastus rufipes* LEWIS, 1894

アカアシアシブトコメツキ (Fig. 2)

真庭郡川上村, 1♀, 2. VI. 1985 (筆者採集)

稀な種のようである。初報の No. 64, 65 に示した同属の種とはその色彩だけでも区別はたやすいが、概形はむしろ中形の *Ampedus* 属 (クロコメツキ類) の一部の種とまぎらわしい。

岸井(1985)³⁾は、日本産のこのグループの種は *Anchastus* 属とは異なるとして新属 *Akitu* を設立した。本来ならそれに従うべきかもしれないが、初報との関係でまぎらわしいのであえてそのままとした。

ビーティングで得た個体である。

145. *Penthelater robustus* (KISHI, 1966)

フトナガコメツキ (Fig. 3)

真庭郡川上村, 1♀, 17. VII. 1985 (筆者採集)

初報の No. 68 に示した同属の *P. plebejus* コフトナガコメツキ (Fig. 4) とよく似ているが、触角が長いことの他、触角基部の概形や体形等から区別できる。

蒜山大山有料道路における灯火採集で得たが、この属自体灯火採集以外の採集ではほとんど得ることができないようである。

146. *Ectamenogonus miyako* KISHI, 1969

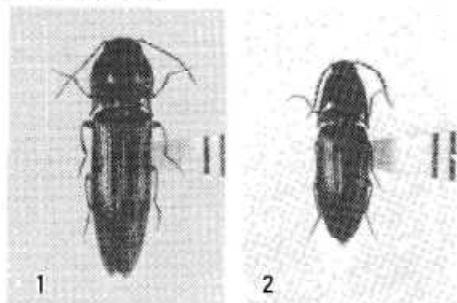
ミヤコアラハダチャイロコメツキ (Fig. 5)

津山市黒沢山, 1♀, 23. VII. 1984

(竹内幸夫採集)

岸井(1969)³⁾は、京都産のただ1頭の雌個体により上記の種名で記載したが、個体数が少ないと認め、その後今日まで本種のことについて詳しく触れた記録は見当らないようである。最近発刊された「原色日本甲虫図鑑Ⅲ、保育社」には図示されているものの、Date は付されていない。

同属の No. 71 *E. rugipennis* アラハダチャイロコメツキ (Fig. 6) とは一見似ているが、前胸の概形や全体に肥厚している事などにより区別は難しくないようである。原記載では前胸背の強い縦溝に特色があるように書かれているが、この個体でみるとかぎりでは両種の明瞭な区分点にはなりにくいものと思われる。また、雄交尾器の概形には明瞭な差があり(本種の方が太短い)一見して区別できる。

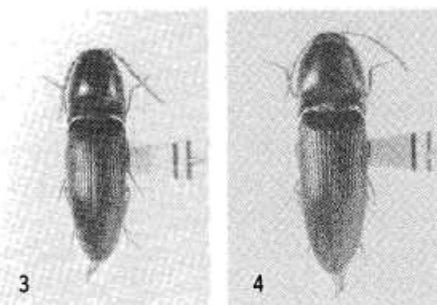


[写真説明]

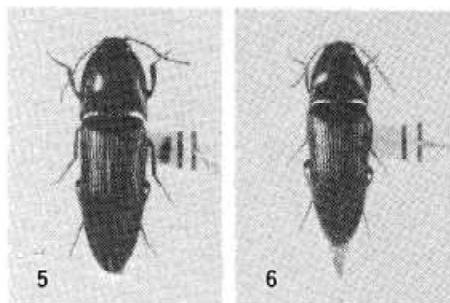
1. コガタムネスジダンダラコメツキ ♀
2. アカアシアシブトコメツキ ♀

* 初報 すずむし 114, 追録 I すずむし 119,
追録 II すずむし 120

3. フトナガコメツキ ♂
4. コフトナガコメツキ ♂ (赤盤郡山陽町産)



5. ミヤコアラハダチャイロコメツキ ♂
6. アラハダチャイロコメツキ ♂ (真庭郡川上村産)



参考文献

- 1) T. KISHII (1966) Elateridae of Kyoto and its Adjacent Regions
2) ——— (1969) Some New Forms of Elateridae in Japan (VI). Bull. Heian H.S. No. 14: 1—10

- 3) ——— (1985) Some New Forms of Elateridae in Japan (XVIII), Bull. Heian H.S. No. 29: 1—30
4) 大平仁夫 (1969—1971) 日本のコメツキムシ、昆虫と自然
(〒701-01 倉敷市上東1050 1)

トモンハナバチの記録

原田 裕康*

トモンハナバチ *Anthidium septemspinosum* LEPELETIER は広くユーラシア大陸に分布する反面、日本においては中部地方から中国地方にかけてだけしか分布せず、しかも局地的な分布傾向を示すので、その記録は非常に少ない。岡山県下においても、倉敷と津山での古い記録の他には、わずかに京山と操山が近年の記録としてあるだけである。このようなことからみても、トモンハナバチは比較的稀な蜂の一種であるといえよう。

数ある私の標本の中にも、1981年8月25日の岡山市東平島での1♀と、1983年8月7日の岡山市沢田での1♀の標本しかない。しかも、そのうちの東平島の個体は知人より譲り受けたもので、自分の手で採集したものはたったの1頭ということになる。旧備前国地方を広く歩くが、めったにお目にかかるないハチなのである。

ところが、どういうわけか1984年の夏から自宅の庭の小花にわずかながら訪れるようになり、1985年の夏は、7月22日から8月27日までの約1ヶ月間、別表の

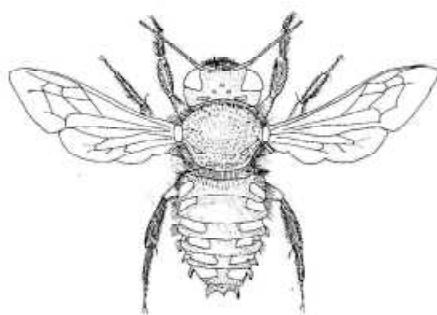
ごとく訪花した。このトモンハナバチをひきつける花は、段菊ブルーへブンという多年草で、某種苗会社よりハチのやるべきそうな花を選んで取り寄せたものの1つである。淡青紫色の小花が多数、節目ごとに段状に長期間咲き、他にも何種類かのハチをひきよせている。

詳しい観察はしていないが、図鑑にも簡単な説明しかなく報告自体少ない種なので、以下トモンハナバチについて少しふれてみることにする。

トモンハナバチは、その名のごとく黒い腹部に黄色な10個の斑紋があるが、これは雌の場合において当てはまり、雄ではさらに第6背板にも一対あるので12紋となる。この黄紋は腹端にむけて次第に紋と紋との間隔が狭まり、上方から見るとV字型に並んでいることに気づく。また、頭頂と後胸背板の基部及び後縁にそれぞれ一对小さな黄紋があるが、ほとんど消失してしまっている個体もなかにはある。特に後胸背板の小紋は、はっきりと現れる個体の方がむしろ少なく、微小な点である場合が多い。

次にトモンハナバチの体毛について述べると、胸部背面にはうす茶色の短毛を密生し、小さな点刻を有す

* 〒701-42 邑久郡長船町福岡453-7



トモンハナバチ ♀

る腹部背面にはうぶ毛程度の微毛がまばらに生えている。そして、腹面には白色の体毛が密生している。この体毛の生え方は雌よりも雄の方において顕著であり、多少長い。しかし、雌の腹部下面にある花粉を集めるための剛毛（スコバ）だけは雌の方が長く、やや他所より光沢のある銀白色で少し堅めである。とはいってもこの箇所の体毛は、他のハキリバチ亜科の雄に比べれば非常に長く、まるで他種の雌にあるスコバのようである。なお、跗節にも比較的長い白色軟毛が生えており、黒い体とのコントラストが美しい。

ところで、トモンハナバチの雄はハチ類の通性に反して雌よりも大きいのが普通で、雌の体長12~14mmに対して14~18mmもある。そして、顔面に目立つ大きな黄斑があるので、飛んでいても一見して雄だとわかる。花から花へとよく飛びまわるが、人をそれほど警戒せず、花にとまっているところへ手をさしのべてもすぐには逃げないので、とても観察しやすい。

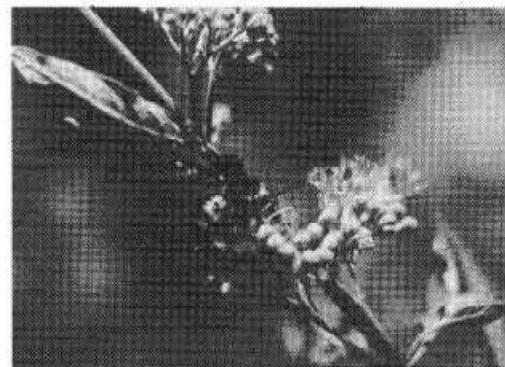
成虫の活動は他のハチと同じで、大体午前11時から午後1時の時間が活動のピークになり、段菊への訪花がよくみられるようになる。そして、花壇が建物の陰となる午後4時頃まで段菊のまわりを飛んでいる。

結構快活で、台風が日本に接近した1985年8月7日から9日の3日間、風に吹かれながらも吸蜜に訪れていた。段菊の細い茎が揺れて位置の定まらない花に、振り落されまいとして必死にしがみついている姿はけなげであった。そのような状況の中で、片方の触角を失ない、飛ぶことさえおぼつかないほどに衰弱した雄のトモンハナバチが1頭、同じように訪れていた。翌日、この老蜂が気になり段菊のまわりを丹念に探してみたが、その生死を確認することはできなかった。どこか人目のつかない所で死んだのだろう。

さて雌蜂は、花粉と蜜集めに段菊の花上を次から次へと訪花し、スコバに青色の花粉をいっぱいつけて、どこへともなく去っていく。近くの畑にある竹筒にでも

も営巣しているのだろうが、とうとう見つけることはできなかった。私の家にも多数の竹筒を仕掛けておいたが、営巣している様子はなかった。ひょっとすると土中に営巣しているのかもしれない。

一方雄蜂は、なわばりを持っているらしく、段菊のまわりをパトロール飛行しており、他の蜂が来ると追い払う。結構勇敢で、自分よりも大きいクロアナバチでも、なわばりと思われる範囲へ入れば追いかけて行く。また、おもしろいことに、1頭採集するとまた別の雄がどこからともなく現れて段菊の株を占有飛行し、絶えず段菊の花上にはトモンハナバチの雄が1ないしは2頭飛んでいる。パトローリング中の雄は、雌を見つけるとすぐさま交尾行動をとり、上から馬乗りになり雌を抱きかかえる。その時、雄の第5・6・7背板後縁にある独特の鉤状突起が雌のつるつるした腹端をとらえるのに役立つのではないかと思われる。



段菊の花に訪れたトモンハナバチ

以上、1985年だけの観察より、簡単にトモンハナバチについて述べてみたが、まだ巣作りの様子や巣の構造・幼虫の発育過程など、調べてみたいことはいくらでもある。観察を続ければ寄生者なども必ず見つかるだろうし、考え違いや新しい発見などもあるであろう。

しかし、誠に勝手なものであるが、珍しいと思っていた蜂が、わりと多く、しかも自宅の庭で見られるようになると、最初はじっくり見ていたものが、次第に興味が薄れてきてあまり熱心に見なくなってしまった。折角の機会を大いに活用すべきであったと反省している。というのも、その年にいくら沢山いても、またその翌年、多数発生するとは限らないからである。人目にはあまり環境の変化があったとは思えないのに、同じ時期に同じ場所へ訪れても、前年多数いたものがただの1頭も見られないことは往々にしてあるからである。

実は、1985年の夏、今までの記録の中で比較的数多く採集されている津山と京山に、トモンハナバチを求

めて行ってみた。津山では、最も良いと思われる8月上旬に訪れたにもかかわらず、目撃さえできず、しみじみと17年も前の記録であることを痛感させられた。一方、京山の方も時期を変えて3回も足を運んでみたが、ただの1頭もその姿を見せてはくれなかった。

場所によってはある程度まとまった個体数が生息しているが、他の場所ではまったく見ることができない。また、ある一時期、数多く採集できても、その後はふつりと採れなくなる。思い過ごしかもしれないが、トモンハナバチはそのような気まぐれな因子を持ったハチであるような気がする。

また1986年の夏、自宅の庭にトモンハナバチが訪れて来てくれるだろうか。段菊の花の咲く時期が待ちどおしく思われる今日この頃である。

なお、最後になりましたが、県内のトモンハナバチについていろいろと御教示いただいた近藤光宏氏に深く感謝いたします。

参考文献

- 1) 平嶋義宏 (1976) 原色昆虫大図鑑III (ハキリバチ科), 北隆館: 307
- 2) 小野徹也 (1969) トモンハナバチについて, 生物研究 (福井) XIII: 22
- 3) 伊藤国彦 (1981) 岡山市街地周辺部の昆虫相

(1) — 講題目一, 岡山県立短期大学研究紀要第25号
: 25

別表 トモンハナバチの訪花個体数

| 年月日 | 採集個体 | 目撃個体 |
|------------|-------|---------|
| 1984年8月19日 | 1♂ 1♀ | |
| 1984年 小計 | 1♂ 1♀ | |
| 1985年7月22日 | 1♂ 1♀ | |
| 7月23日 | 1♂ | |
| 7月28日 | 3♂ | 1♀ |
| 7月31日 | 1♂ 1♀ | 1♂ 1♀ |
| 8月1日 | | 1♂ |
| 8月2日 | | 1♂ 1♀ |
| 8月7日 | | 2♂ 1♀ |
| 8月9日 | | 2♂ 2♀ |
| 8月11日 | 1♂ 1♀ | 1♂ 1♀ |
| 8月13日 | | 2♂ 1♀ |
| 8月14日 | 1♂ | 1♂ 1♀ |
| 8月25日 | | 1♂ 1♀ |
| 8月27日 | | 1♀ |
| 1985年 小計 | 8♂ 3♀ | 12♂ 11♀ |
| 計 | 9♂ 4♀ | 12♂ 11♀ |

岡山県で採集したコノマチョウ属について

林 博之*

筆者は、1983年に倉敷市内でウスイロコノマチョウを偶然採集¹⁾して以来、岡山県の蝶でも特にコノマチョウ属に興味を持って調査を続けてきたが、1985年には比較的多くの個体を採集及び観察できたので、その記録を報告する。

この報告は、コノマチョウ属2種についてそれぞれ、採集記録及びその時の状況を、採集年月日の古い順に掲げている。

1 *Melanitis phedima* CRAEER クロコノマチョウ

(1) 1♀ (秋型), 高梁市巨瀬町六名,

19. X. 1985 (1:30pm) [写真1, 2]

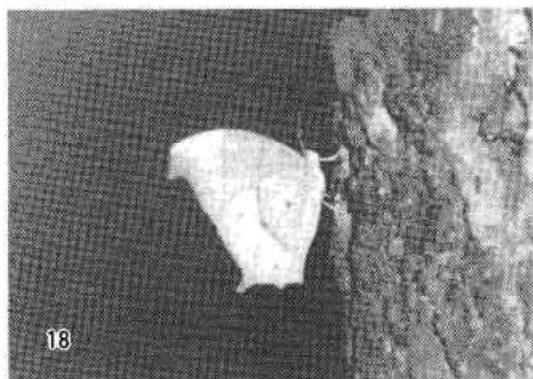
千柱寺から秋葉山山頂を目指して200m程登った所で採集。ゆっくりした飛び方で、全体的に黒っぽく、前翅表の橙色がやけに目に付いた。一度見失ったが、

付近で軽くネットを振ると、道路上に飛び出して落葉にとまった。写真撮影を終えるまでに30分以上経過したが、その間全く動かなかった。[写真17] 樹林内ではなく、割と明るい場所にいた。この後、山頂まで探しながら歩いたが、他の個体は発見できなかった。



(2) 1♀ (秋型), 総社市見延本村, 28. X. 1985
(4:00pm) [写真3, 4]

アベマキの樹液で吸汁中の個体を発見し撮影。[写真18] その後、採集しようとしたが、林内に逃げられた。林内が薄暗いえ、翅を閉じている時は枯葉と同じ色なのでなかなか発見できず、数回逃げられた後、とまった所が確認できたので、やっと採集することができた。



(3) 1♀ (秋型), 総社市横谷郷ノ内,

5. XI. 1985 (0:30pm) [写真5, 6]

柿の木の根元から飛び出した個体を発見。周りが畠で柿の葉が既に落ちていたため、明るい環境となっていた。まず逃げられる心配はないと思い、気に入った構図になるまで飛び立たせて撮影した。[写真19]

ウスイロコノマを含めて、他の採集日はいずれも晴天の日だったが、この日は曇天だった。飛び立たせてもすぐにとまり、遠くへ行こうとはしなかった。

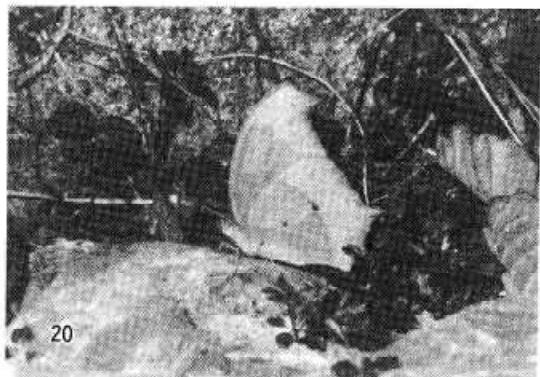


(4) 1♀ (秋型), 総社市横谷西ノ地,

5. XI. 1985 (5:30pm) [写真7, 8]

午後3時頃、(3)と同様柿の木の下から飛び出した個体を発見。直ちに撮影 [写真20] する。しかし、何回も飛び立たせているうちに、近くの竹藪の中へ消ってしまった。2時間程たって再び訪れたところ、同じ個体を発見したが、再び藪へ逃げ込まれた。既に薄暗く

なっていたが、とまった所が確認できたので、採集することができた。

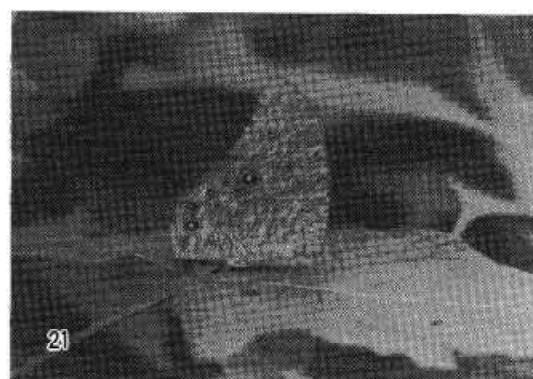


2 *Melanitis leda* LINNAEUS ウスイロコノマチョウ

(1) 1♂ (夏型), 新庄村野土路, 26. VII. 1985

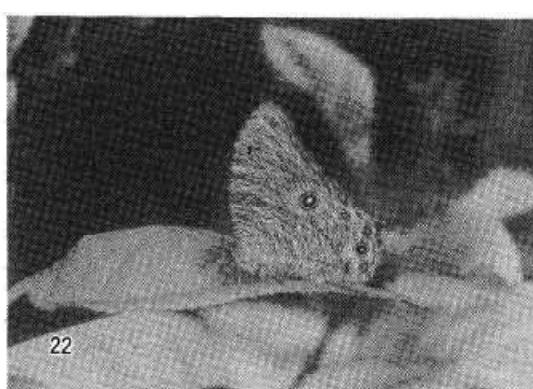
(10:00am) [写真9, 10]

川沿いのオニゲルミの根元付近から飛び出した個体を発見。2m位まで近づくと敏感に飛び立つが、すぐ近くにとまり、オニゲルミの木陰から出ようとした。写真を撮影 [写真21] した後採集した。他には発見できなかった。



(2) 1♂ (夏型), 総社市見延本村, 23. VIII. 1985

(5:30pm) [写真11, 12]

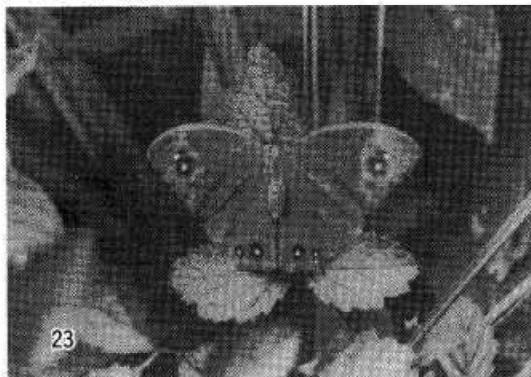


樹林内にて撮影〔写真22〕及び採集。かなり敏感で、すぐ飛び立ち、なかなか近づくことができなかつたが、林内から出ることはなかつた。葉上よりもむしろ落葉の上によくとまつた。

(3) 1♀(夏型), 総社市横谷西ノ地,

24. VII. 1985 (10:30am) [写真13, 14]

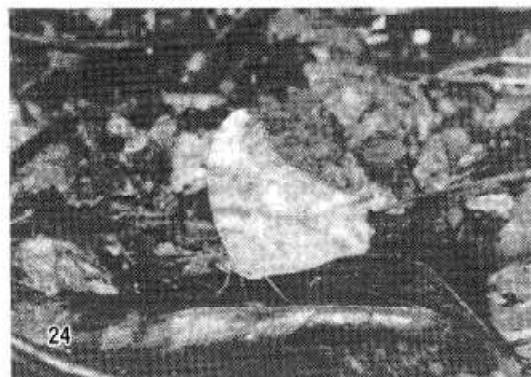
(1)と同様、昼間だったせいかほとんど逃げなかつたので簡単に採集することができた。採集後、少し弱らせて撮影したので、翅を開いた状態で写真に撮ることができた。〔写真23〕



この個体は卵をつけていたので、産卵することを期待して飼育してみた。吸汁を確認できた果物は、ブドウ・柿・梨・イチジクで、昼間でも夜間でも行っていた。活発に飛び回ったのは夕方だった。しかし、産卵することなく9月9日に死亡した。翅は写真のとおり、展翅に耐えないほどボロボロになってしまった。腹を開いて卵数を数えてみると、約100個を確認することができた。

(4) 1♂(秋型), 総社市横谷郷ノ内,

9. XI. 1985 (11:00am) [写真15, 16]



山裾に沿つて歩いていた時、足元から飛び出した個体を発見、撮影〔写真24〕した。その後、採集しようとしたが藪の中へ逃げ込まれた。夏型と異なり枯葉によく似ているため見つけにくいか、ゆるやかに数mぐ

らい飛んではとまり、とまつた所を確認して、やっと採集できた。発見した場所は日陰となつていた。この個体は開張54mmしかなく、他の個体に比べてかなり小型だつた。

3まとめ

まだ観察した個体数が少ないので生態は明らかではないが、現在まで得た知見を総合すると以下のとおりである。

晴天の日は日陰又は林内にいて明るい所へはあまり出てこないが、曇天の日は昼間でも明るい所へ出てくるようである。

採集できた場所は、山裾の近くの果樹の下・樹液・山裾の葉上か落葉の上だった。腐果や樹液で吸汁するのは特に決まった時間帯はないようだが、陽が当たる所では朝方か夕方に多いようである。また、吸汁に来ていた個体は、一度逃がしても数時間するとまた戻ってくるようである。

活動時間は夕方のようだが、昼間飛び回っていた個体の確認ができなかつたので、はっきりしない。コノマチョウ属にはかなり移動性があるようだが、これが夕方のみなのか、それとも昼間も移動しているのかははっきりしない。

夜間、電燈に誘われて來ることもある¹¹⁾が、数は少ないようである。

今まで採集したのはいずれも1ヶ所に1個体のみだったので、♀と♂が出会う機会は極端に少ないとと思われる。♀の産卵数は100卵前後と思われる。

発生地が発見できないため、何を食草としているのかは不明であり、成虫以外でのステージも全く不明である。

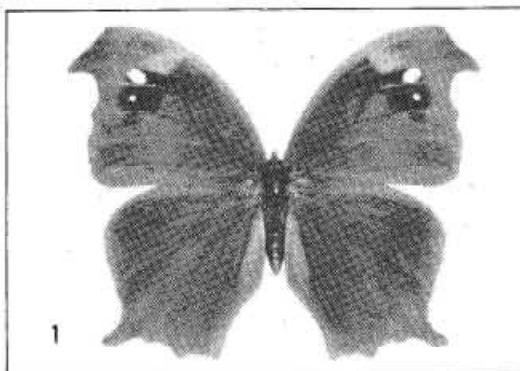
見延地区では過去にもコノマチョウ属が採集されており^{2,3)}、見延から横谷地区のどこかに土着地があるのかもしれない。継続して調査したいと考えている。

会員の方々で未発表の資料をお持ちの方は、是非発表していただかず、筆者まで御連絡いただければ幸いです。

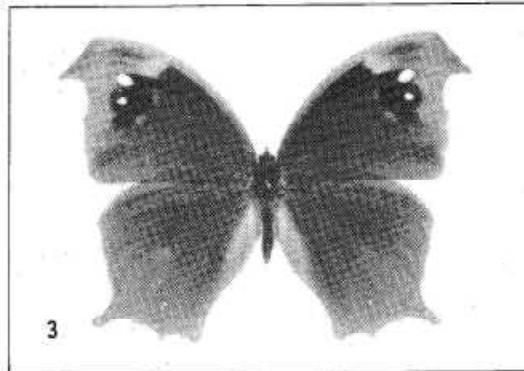
参考文献

- 1) 淀江賢一郎 (1985) 1983年中国地方の迷蝶、昆蟲と自然20(8): 27
- 2) 難波通孝 (1978) 岡山県産蝶類に関する知見、すずむし (115) : 24
- 3) 中村具見 (1980) 総社市でウスイロコノマチョウを採集、すずむし (117) : 20

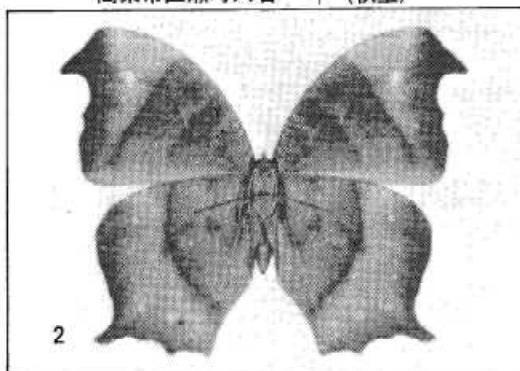
クロコノマチョウ



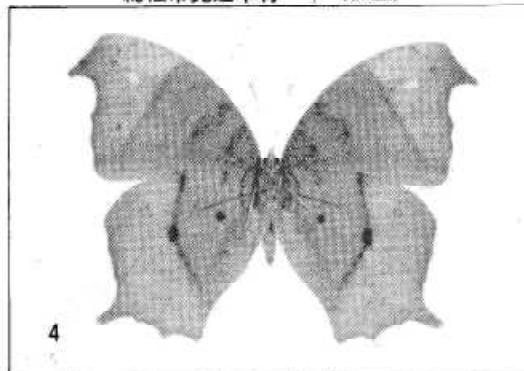
高梁市巨瀬町六名 ♀ (秋型)



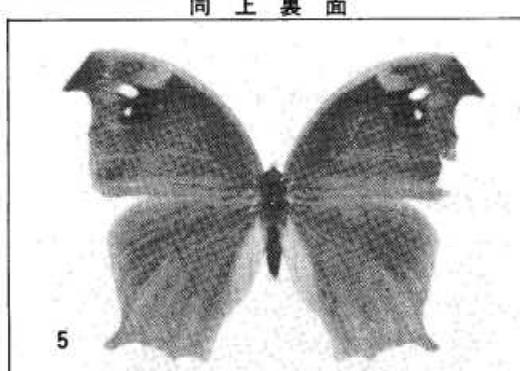
総社市見延本村 ♀ (秋型)



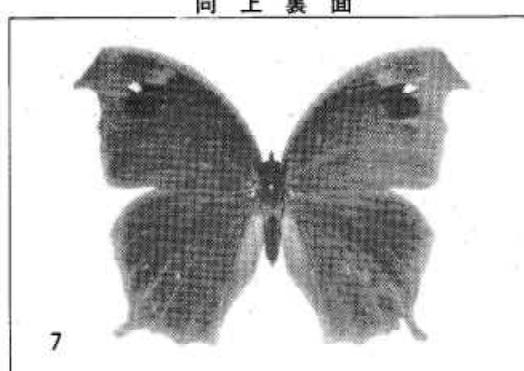
同上裏面



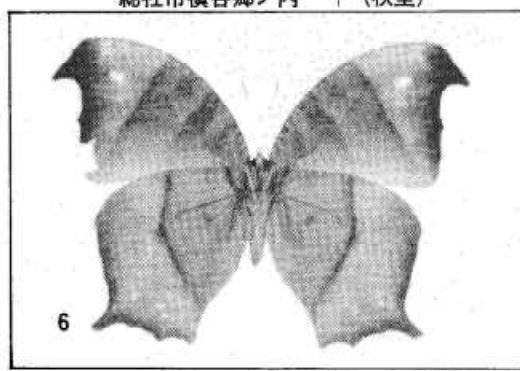
同上裏面



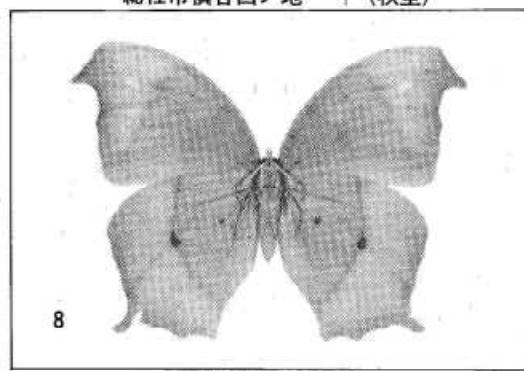
総社市横谷郷ノ内 ♀ (秋型)



総社市横谷西ノ地 ♀ (秋型)

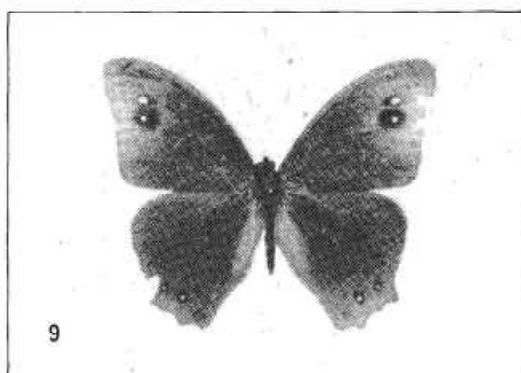


同上裏面



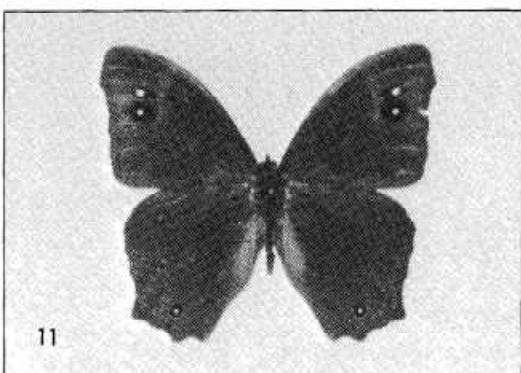
同上裏面

ウスイロコノマチョウ



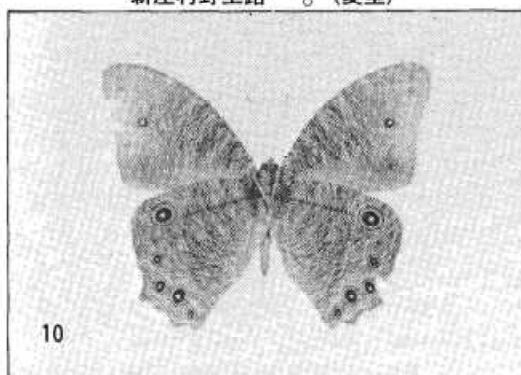
9

新庄村野土路 ♂ (夏型)



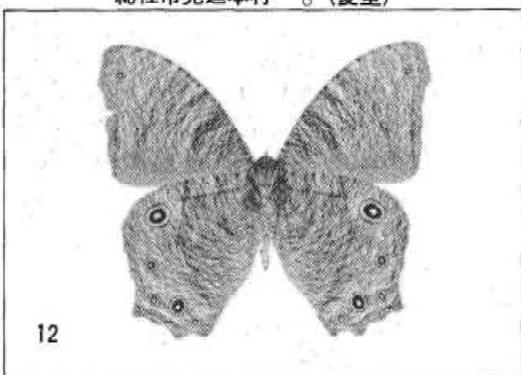
11

総社市見延本村 ♂ (夏型)



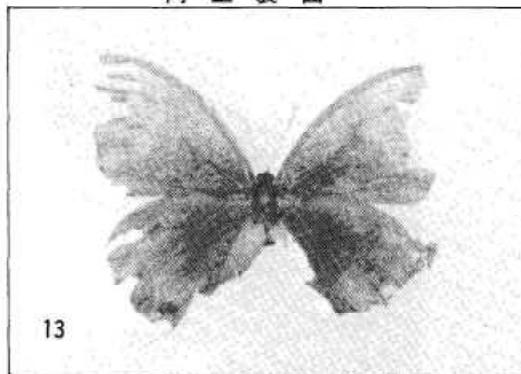
10

同上裏面



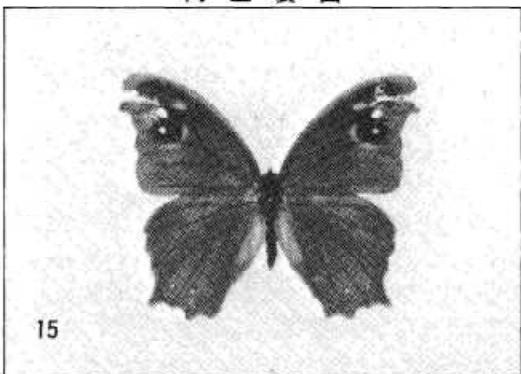
12

同上裏面



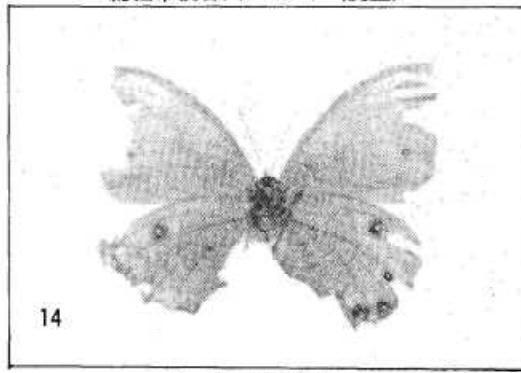
13

総社市横谷西ノ地 ♀ (夏型)



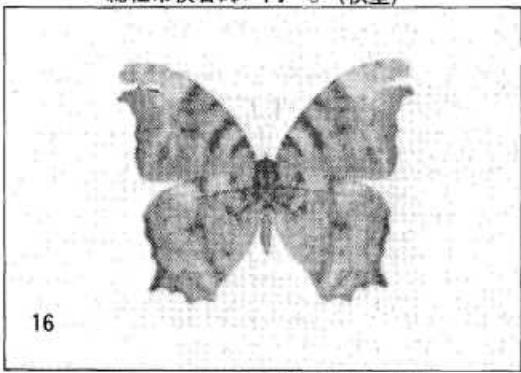
15

総社市横谷郷ノ内 ♂ (秋型)



14

同上裏面



16

同上裏面

近年のタガメの生息及び生態

西 崎 健 二

幼少の頃よりの夢であったタガメの採集が、ここ数年ずっと続き、多少なりともその生態を知ることが出来たので、ここに紹介する。

採集記録

Lethocerus deyrollei VUILLEFROY タガメ

2 ♂ 3 ♀, 蒜山, 20. VII. 1981

1 ♂ 2 ♀, 岡山市野田, 22. VII. 1982

13 ♂ 15 ♀, 高梁市, 22. VII. 1983

3 ♂ 3 ♀, 高梁市, 23. VI. 1984

1 ♂ 1 ♀, 赤磐郡, 27. VI. 1984

2 ♀, 赤磐郡, 3. VII. 1985

いずれも灯火採集であり、近くの水田・池・川などを入念に探してみたものの、全く発見することは出来なかった。しかし、どの個体にも水田の泥と思われるものが付着していたため、水田でオタマジャクシなどを食して生活しているものと思われる。

生態

交尾は6月下旬から8月下旬まで行われ、♀♀互いに水中で体を上下に何回もゆすり合って誘い出す。交尾は水中で呼吸管だけ水面に突出して行うか、又は木の上に登り完全に水上で行う。1回の交尾時間は約2~3分で、何回も繰り返す。

産卵は交尾の行われた次の日に、水面から出た木や草などの15cm位の高さに産み付ける。1回の産卵数は65卵前後で、5日おきぐらに産み付け、7~8回行う。それに伴って、交尾も5日おきぐらにその都度行う。また、産卵は夜に行う。

フ化は産卵後約1週間で、その間に卵の大きさは3倍くらいにふくれあがる。フ化の確率は80%以上だが、卵を守っている♀ [写真1] を外して飼育するとフ化率は0%になり、親が運ぶ水分がフ化に重要な役目を果すように思われる。フ化すれば、その後♀はカラをかき落して、同じ場所へ次の卵を産み付ける準備を行う。フ化はカマキリの様に一勢にそろって行われ [写真2]、次々に水中に落下する。

幼虫は5回脱皮を行い成虫となるが、その期間は次のとおりである。

| | |
|-----------|----------|
| 1令期間 約3日 | 2令期間 約3日 |
| 3令期間 約5日 | 4令期間 約7日 |
| 5令期間 約12日 | |

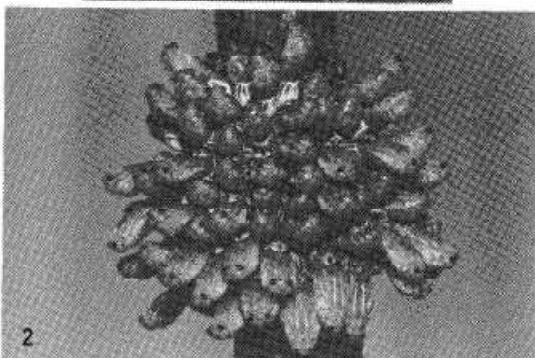
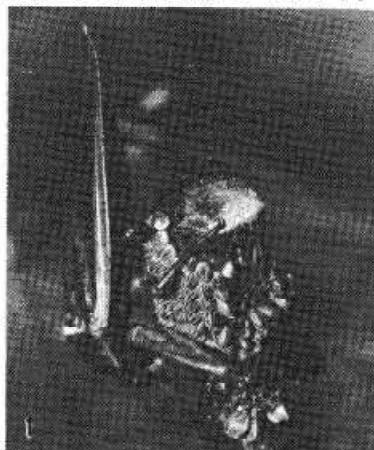
羽化は水面で夜に行われる。羽は水中で伸びて、水上に出て乾かす事はない。なお、成虫になるのは1割程度である。

こうして無事成虫になったものは、冬も水中で過ごし、次の年に交尾・産卵を行い、その次の年まで生き延びる。

おわりに

近年タガメの生息できる場所が非常に減ったと思われる。それはエサであるオタマジャクシのいる水田が非常に少なくなったことに原因があるだろう。そんな中でわずかに生息するタガメを守るためにも、乱獲する業者などをできるだけ追放したいものである。ちなみに筆者の家で育ったタガメは全部放流した。無事に育ち、増えていく事を願う次第である。

なお採集地の詳しい事は、連絡いただければ、生態調査の目的であるならばお教えいたします。



(〒709-08 赤磐郡山陽町桜が丘4-12-9)

岡山県のクビキリギス

近 藤 光 宏

クビキリギスは、キリギリス科の仲間では、成虫で越冬する例外的な存在である。岡山県下では果たしてどうであろうか。手持ちの資料を基にまとめてみることにした。

まず、筆者等の採集による22の記録を月別に整理してみると、次表のように、わずかではあるが、冬季に記録されており、やはり岡山県でも成虫越冬していることがわかる。

クビキリギスの月別記録数

| 月別 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 合計 |
|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|
| 記録数 | 1 | 0 | 1 | 2 | 2 | 4 | 0 | 0 | 9 | 1 | 2 | 0 | 22 |

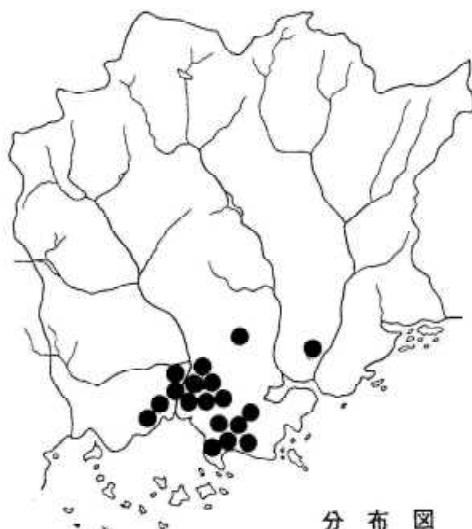
このうち、11月と1月の記録は、いずれも最近のもので、ここにデータを掲げておく。

1♀, Nov. 15, 1985, 倉敷市玉島交通公園,
小倉寛子採集

1♀, Jan. 10, 1986, 倉敷市玉島中央町,
池田康生採集

また、クビキリギスは、アオマツムシ（岡山県未記録）ほどではないが、秋季には電燈に多数集まるなど、市街地の昆虫としても知られている。

そこで、上記22のデータを基にして分布図を作成してみると、その記録はほとんどが県南部に集中しており、その多くは市街地から記録されている。



一方、厳しい冬をしのいだ成虫は、やがて結ばれて世代交代の時期を迎える。4月下旬から5月中旬頃、筆者の住む倉敷の市街地でも、クスノキ・サツキなどの街路樹や、アラカシ・ウバメガシなどの民家の生垣や庭でも鳴き声が聞かれる。無風で、むっとするような気温の高い夜、鳴き声を聞くことが多い。この頃、これほどの音量で「ジー…」と鳴き続ける昆虫は、他にはいないので、この声を聞けばまずクビキリギスの雄であり、同時に、近くには雌もいるものと見てよい。

とは言うものの、とにかく一度この目で見てみたいと思っていた。しかし、毎年のようにこの季節になると、鳴き声は聞かれるが、個体の確認はできないまま、既に何年も経過していた。ところが、昨年、1985年4月20日の夜、運よくその機会に恵まれたのである。

鳴き声をたよりに近付いてみると、そこは倉敷市ど真中に位置する倉敷国際ホテル前の植込みである。さらに接近すると、どうやら背丈ほどの高さに仕立てられたツゲの木である。たまたま持ち合わせていた懐中電燈で丹念に捜したところ、確かに鳴いている。平に刈られたツゲの木の上部中ほどで、少しづつ移動しながら鳴き続けるクビキリギスの雄を、ついに発見することができた。写真はその時のもので、体色は薄い茶色であった。



なお、クビキリギスの体色については、緑色から褐色、時には紅色を帯びるものなどいくつかのタイプがあり、緑色はほとんど雌であることなどが知られている。

(〒701 倉敷市中央2-16-14)

鳥取県右手岬におけるカミキリムシの記録

福 田 元 信

鳥取県右手岬より同県未記録と思われるカミキリムシを含むいくつかの種を記録しているので、報告しておく。

当日の様子を少し述べておくと、岡山県勝田郡勝田町右手より右手岬を越え、鳥取県智頭町に入ると最初の部落「新田」がある。部落の入口に近い道路の両側にシナノキがあり、その日は花が満開で、道一面に花が落ちていた。その道路上の花にヨツスジハナカミキリとマルガタハナカミキリが群がっているのにびっくりして車を止めた。シナノキの花を中心にして、「日本産カミキリ大図鑑」によると鳥取県では空白となっているコウヤホソハナカミキリ及びホソトラカミキリを含むいくつかの種を記録した。

時刻は午後1時頃で晴天であった。しかし、間もなく激しい夕立に見舞われ、採集の時間は2時間程度であった。

下記の記録は全て

鳥取県八頭郡智頭町新田、

21. VII. 1984, 筆者採集保管

採集記録（※印は鳥取県初記録）

1. **Strangalia koyaensis* MATSUSHITA

コウヤホソハナカミキリ many exs.

シナノキの花のスイーピング及び下草への飛来で30頭以上を採集できた。鳥取・岡山両県では未だ確認できなかった本種の多産には驚かされた。なお、奈良県高野山産に比較して、触角が高野山産の黄褐色に対し当地産は全て黒色であった。

2. *Japanostrangalia dentatipennis* (Pic)

ヒゲジロハナカミキリ 1 ex.

中国山地では多いものではない。花のスイーピングで得られた。

3. *Brachleptura pyrrha* (BATES)

ヒメアカハナカミキリ 1 ex.

下草の周辺を飛んでいた。

4. *Strangaliella shikokensis* (MATSUSHITA)

タテジマハナカミキリ 3 exs.

下草周辺を飛行していた。

5. *Leptura ochraceofasciata* (MOTSCHULSKY)

ヨツスジハナカミキリ many exs.

下に落ちた花の上に足の踏み場もない程群がり、交尾中のものも見られた。また、花の周辺を多数が飛行していた。

6. *Judolia cometes* (BATES)

マルガタハナカミキリ many exs.

中国山地ではそう多いものではないが、上記のヨツスジハナカミキリと同様に多数見られた。

7. *Idiostrangalia contracta* (BATES)

ミヤマホソハナカミキリ many exs.

下草周辺を飛行していた。

8. **Raphuma xenisca* (BATES)

ホソトラカミキリ 3 exs.

中国山地では少ない。花のスイーピングでネットインした。

その他に、エグリトラカミキリ・トゲヒゲトラカミキリ・ミヤマクロハナカミキリ・ラミーカミキリも採集されたが、フタスジハナカミキリは発見できなかった。

追記

地元の古老人聞くと、シナノキをこの地方では「ひの木」と呼び、雨具の「ミノ」を作る材料として昔は大切な木であったらしい。何年かに一度はシナノキを切り、川に浸してその皮を剥ぎ、「ミノ」の材料にしたそうである。この木も何度も切られ、その切株から芽ばえたものとのことであった。

次の年の1985年に再び当地を訪れたが、道の片側の木は道路工事のために切り倒されており、又残った木もその年は全く花をつけておらず、上記のカミキリムシの飛来は見られなかった。

(〒708-11 津山市高倉西97)

岡山県未記録のキバチ類

渡 辺 昭 彦*

岡山県内のキバチ類を含む広腰亜目については近藤光宏・三宅宗夫の両氏により精力的に研究されており、本誌112~113号に両氏が発表された「岡山県の広腰亜目、1~2」によりファウナの概要を知ることができる。

キバチの類は土場や立枯れで得られることが多く、甲虫類の採集をしていると見かけることも少なくない。筆者も以前から目に付く範囲で採集していたが、上記の報文中に無い種がいくつか得られたので報告するものである。

なお、山地治氏採集の一種も合わせて報告するが、発表を許された同氏には深く感謝する。

Family SIRICIDAE キバチ科

1. *Tremex contractus* MAA

カタマルヒラアシキバチ [写真1]

岡山市高松稻荷、1♀, 29. IV. 1979

一見ヒラアシキバチに似ているが、第8腹背板が著しく長いこと等により区別は難しくはないようである。同定は「日本昆虫分類図説2—4、膜翅目・キバチ科」によったが、同書には本種が極めて稀であることを共に4~5月に採集されていることが記されている。

この個体も4月に採集され、春季に発生する種であることが裏付けられたが、近縁のヒラアシキバチ・キマダラヒラアシキバチの発生が秋季であることを考えると興味深い。また、飛翔中を採集したためHostは不明である。

Family XIPHYDRIIDAE クビナガキバチ科

1. *Xiphydria buyssonii* KONOW

キアシクビナガキバチ [写真2]

英田郡西栗倉村若杉、1♀, 14. VII. 1984

(山地採集)

中国山地東部では良く保存された原生林に分布するよう、鳥取県・兵庫県においても得ているが、個体数は多くないようである。

2. *Platyxiphydria miyakei* TOGASHI

ミヤケヒラタクビナガキバチ [写真3]

阿哲郡哲多町荒戸山、1♀, 19. VI. 1983

ホオノキの倒木(生木)上より採集した。

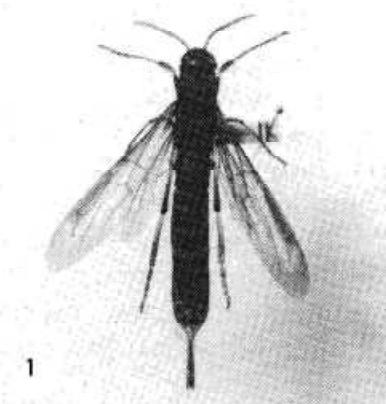
3. *Euxiphidria rufipes* MOCSARY

アカズクビナガキバチ [写真4]

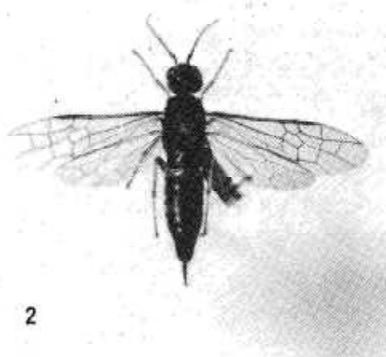
勝田郡奈義町滝山、1♀, 6. VI. 1982

頭部のみ朱赤色で他は翅まで含めて黒色という特色のある種である。この個体は写真でみるよう大きくなり損した個体であるが、これは採集時からのものである。オニグルミの大木の下の林道上より拾ったもので、採集時は生きてはいたが、飛ぶことはできなかつようである。

筆者はこの破損は鳥に捕食されかかったものではないかと考えているが、いかがなものであろうか。



1



2

* 〒701-01 倉敷市上東1050-1



3



4

大佐町大佐山調査会における採集品目録

倉敷昆虫同好会*

1985年6月29日～30日に予定されていた大佐山一泊調査会は、雷雨まじりの集中豪雨に見舞われる中で決行されましたが、その時の採集品のうち同定の完了したものについて報告しておきます。

科名・種名・採集個体数・採集月日・採集者を記し、採集者は、近藤光宏（TK）・中村具見（TN）・吉原一美（KY）・渡辺和夫（KW）と略記しました。採集地は全て、岡山県阿哲郡大佐町大佐山です。なお、風早保男氏も参加されていましたが、別記のとおり急逝され、採集品の整理もできていないままなので、氏の記録は割愛しました。

同定については、ゾウムシ類は東京都の宮川澄昭先生、鱗翅類・甲虫類（ゾウムシ類以外）・その他はそれぞれ本会々員の中村具見・山地治・近藤光宏の諸氏にお願いしました。御協力を深く感謝いたします。

採 集 品 目 錄

PENTATOMIDAE カメムシ科

1. *Halyomorpha mista* UHLER クサギカメムシ,
1 ex. 29. VI, TK

2. *Nezara antennata* SCOTT アオクサカメムシ,
1 ex. 29. VI, TK

3. *Plautia stali* SCOTT チャバネアオカムシ,
2 exs. 29. VI, TK

MIRIDAE メクラカメムシ科

4. *Eurystylus coelestialium* KIRKALDY メンガタメクラ
ガメ, 1 ex. 29. VI, TK

GERRIDAE アメンボ科

5. *Gerris paludum insularis* MOTSCHULSKY アメンボ,
2 ♂ 1 ♀, 30. VI, TK
6. *G. lacustris latiabdominis* MIYAMOTO ヒメアメンボ,
6 ♂ 4 ♀, 30. VI, TK

MEMBRACIDAE ツノゼミ科

7. *Machaerotyphus sibiricus* LETHIERRY トビイロツノゼ
ミ, 1 ex. 30. VI, TK

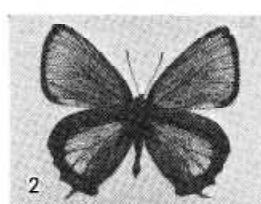
CERCOPIDAE アワフキムシ科

8. *Sinophora maculosa* MELICHAR クロフアワフキ,
5 exs. 29. VI, TK [写真1]

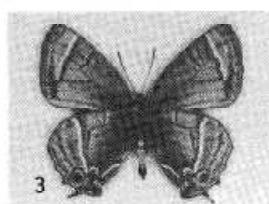


LYCAENIDAE シジミチョウ科

9. *Chrysozephyrus smaragdinus* BREMER メスアカミド
リシジミ, 2 ♀, 30. VI, TN [写真2, 3]



2



3

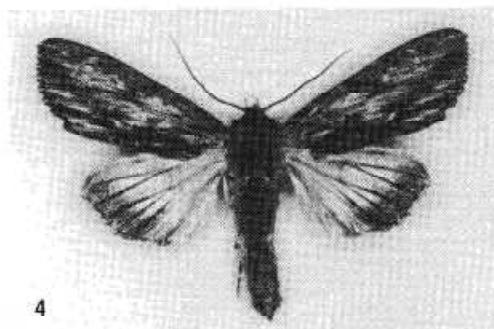
* 〒719-11 倉敷市幸町 倉敷昆虫館内

小雨の降り続く中、少し空が明るくなったので山頂まで登っていくと、灌木上を敏速に飛ぶ本種がいくつか見られた。大佐山では既に採集されているが、正式に発表されるのはこれが初めてと思われる。

(写真2：表面、写真3：裏面)

NOCTUIDAE ヤガ科

10. *Moma alpium* (OSBECK) ゴマケンモン,
1♂ 1♀, 29. VI, TN
11. *Pyrinia bifasciata* (STAUDINGER) ウスオビヤガ,
1♂, 29. VI, TN
12. *Diasria defaria* (BUTLER) コウスチャヤガ,
1♂, 29. VI, TN
13. *Xestia c-nigrum* (LINNAEUS) シロモンヤガ,
1♂, 29. VI, TN
14. *Apamea aquila* (DONZEL) アカモクメヨトウ,
2♂ 3♀, 29. VI, TN
15. *Leucapamea askoldis* (OBERTHÜR) コマエアカシロヨ
トウ, 1♂, 29. VI, TN
16. *Euplexia illustrata* GRAESER シラオビアカガネヨト
ウ, 1♂ 1♀, 29. VI, TN
17. *Auchmis saga* (BUTLER) セブトモクメヨトウ,
1♂, 29. VI, TN [写真4]



4

- 本種は北海道南部から九州にかけて見出されているが分布はかなり局地的とされており[※]、また、岡山県の昆虫（倉敷昆虫館、1978）にもでてこないので、県下でも分布は限られるものようである。本属の蛾はメギ属を食草とする[※]が、メギは蛇紋岩地帯によく生育することが知られており、山体の大部分が蛇紋岩でできている、特有の植物を産する大佐山で本種が得られたことは、その局地的な分布が地質や食草に関係しているようで興味深い。
18. *Pipterygina cupreatineta* SUGI ウスクロモクメヨト
ウ, 1♀, 29. VI, TN

* 杉繁郎(1982)ヤガ科、井上寛ほか、日本産蛾類大
図鑑1:760、講談社、東京

19. *Sphragifera sigillata* (MENETRIES) マルモンシロガ,
1♂, 29. VI, TN
20. *Ingaodes nobilis* (STAUDINGER) マエキリンガ,
1♂, 29. VI, TN
21. *Micardia argentata* BUTLER シロヒシモンコヤガ,
1♀, 29. VI, TN
22. *Acanthoptusia ichinosei* (DUFAY) ニシキキンウババ,
1♂, 29. VI, TN
23. *Chrysorithrum amatum* (BREMER & GREY) カクモン
キシタバ, 1♀, 29. VI, TN
24. *Hypocala subsatura* GUENÉE タイワンキシタクチバ,
1♀, 29. VI, TN
25. *Diomea cremata* (BUELER) ムラサキアツバ,
1♂, 29. VI, TN
26. *Hadennia incongruens* (BUTLER) ハナマガリアツバ,
1♀, 29. VI, TN

NOTODONTIDAE シャチホコガ科

27. *Fentonia ocyptete* (BREMER) ホソバシャチホコ,
1♀, 29. VI, TN
28. *Drymonia japonica* (WILEMAN) コトビモンシャチホ
コ, 1♀, 29. VI, TN
29. *Fusapteryx ladislai* (OBERTHÜR) シロスジエグリシャ
チホコ, 1♂, 29. VI, TN
30. *Togepteryx velutina* (OBERTHÜR) タテスジシャチホ
コ, 2♂, 29. VI, TN
31. *Spatialia dives* OBERTHÜR ギンモンシャチホコ,
1♂, 29. VI, TN

SCARABAEIDAE コガネムシ科

32. *Adoretus tenuimaculatus* WATERHOUSE コイチャコ
ガネ, 1ex. 29. VI, KW
33. *Sericia boops* WATERHOUSE ヒケナガビロウドコガネ,
1♀, 29. VI, KW

BUPRESTIDAE タマムシ科

34. *Trachys saundersi* LEWIS ソーンダーズチビタマム
シ, 1ex. 29. VI, KW

NITIDULIDAE ケシキスイ科

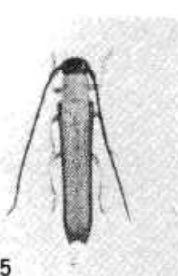
35. *Cychramus dosalis* REITTER キイロセマルケシキス
イ, 1ex. 29. VI, KW

COCCINELLIDAE テントウムシ科

36. *Anatis halonis* LEWIS ウンモンテントウ,
1ex. 30. VI, KW

CERAMBYCIDAE カミキリムシ科

37. *Epilenea comes* BATES ヨツキボシカミキリ,
1♀, 29. VI, KW
38. *Oberea sobosana* OHBAYASHI ソボリンゴカミキリ,
1♀, 30. VI, KW [写真5]



5

ツツジの枝先裏面に静止していた個体を採集したもので、附近にはツツジが多く生えており、これから発生したものであろう。

CHYSOMELIDAE ハムシ科

39. *Arthrotus niger* MOTSCCHULSKY ムナグロツヤハムシ,
1♀, 29. VI, KW

ATTELABIDAE オトシブミ科

40. *Deporaus unicolor* (ROELOFS) コナライクビチョッキ
リ, 1ex. 30. VI, KW

41. *Neocoenorrhinus assimilis* (ROELOFS) カシリリチョッ
キリ, 2exs. 30. VI, KW

42. *Lasiorhynchites brevirostris* (ROELOFS) クチブト
チョッキリ, 2exs. 30. VI, KW

43. *Paroplapoderus pardalis* (VOLLENHOVEN) ゴマダラオ
トシブミ, 1ex. 30. VI, KW

CURCULIONIDAE ゾウムシ科

44. *Phyllobius armatus* ROELOFS リンゴコフキゾウムシ,
4♂ 2♀, 29. VI, KY; 3♂ 3♀, 29. VI, KW

45. *Myllocerus griseus* ROELOFS カシワクチブトゾウム
シ, 3exs. 29. VI, KY; 2exs. 29. VI, KW;
4exs. 30. VI, KW

46. *Cyrtopistomus castaneus* (ROELOFS) クリイロクチブ
トゾウムシ, 1ex. 29. VI, KY

47. *Catapionus modestus* ROELOFS フキヒヨウタンゾウ
ムシ, 2exs. 30. VI, KY; 4exs. 30. VI, KW

48. *Larinus latissimus* ROELOFS ゴボウゾウムシ,
1ex. 30. VI, KY

49. *Mecysolobus piceus* (ROELOFS) カシアシナガゾウム
シ, 1ex. 29. VI, KW

50. *Rhamphus pulicarius* (HERBST) リンゴノミゾウムシ,
5exs. 29. VI, KY

51. *Anthonomus bisignifer* SCHENKLING イチゴハナゾウ
ムシ, 1ex. 29. VI, KW

52. *Circulio antennatus* (KÔNO) ムモンチビシギゾウム
シ, 2exs. 30. VI, KY; 2exs. 30. VI, KW

53. *C. minutissimus* DALLA TORRE et SCHENKLING ウスモ
ンチビシギゾウムシ, 3exs. 30. VI, KW

54. *Mecysmoderes fulvus* ROELOFS ツツジトゲムネサル
ゾウムシ, 1ex. 30. VI, KY

55. *Trachodes subfasciatus* Voss ダルマカレキゾウム
シ, 2exs. 29. VI, KW

56. *Acicnemis palliata* PASCOE ウスモンカレキゾウム
シ, 1ex. 29. VI, KY

57. *A. sp.* クロカレキゾウムシ近縁種,
1ex. 29. VI, KW

58. *Rhadinomerus sp.* ナガクチカクシゾウムシの一種,
2exs. 29. VI, KW

SIRPHIDAE ハナアブ科

59. *Metasyrphus nitens* ZETTERTEDT ナミホシヒラタア
ブ, 1♂, 29. VI, TK

ギフチョウの産卵植物 2例

中 村 具 見

岡山県産ギフチョウの食草としてはこれまでにミヤコアオイ¹⁾、ウスバサイシン²⁾、フタバアオイ³⁾の3種が記録されている。ミヤコアオイはもっとも広く分布しており、現在知られる県下のギフチョウ産地のほとんどはミヤコアオイの分布圏内にあり、もっとも重要な食草となっている。一方、ウスバサイシン、フタバアオイはそれぞれ1ヶ所ずつ記録されているにすぎず、しかも近隣にミヤコアオイの分布地があることから副次的な食草と考えられる。

ところで、県下にはカンアオイ類は上記3種の他に北東部の苦田郡や勝田郡にヒメカンアオイが分布して

いる。ヒメカンアオイは中部、近畿地方に広く分布しており、これらの地域ではギフチョウの主要な食草となっているにもかかわらず、県下では今まで食草として確認された例はないようである。筆者は次に示すように、ヒメカンアオイ及び記録の少ないフタバアオイへの産卵例を確認しているので簡単に報告しておきたい。

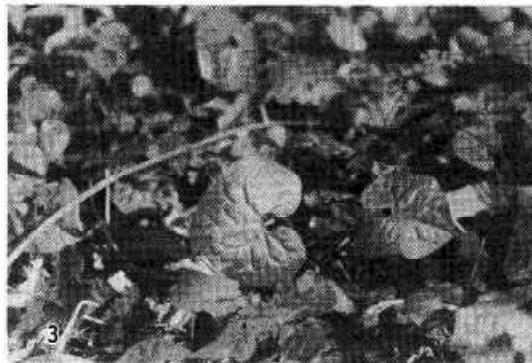
なお、ヒメカンアオイの産卵例を撮影していただいた安井茂夫氏には深謝する次第である。

I ヒメカンアオイ [写真1, 2]

1981年5月3日 苦田郡奥津町井坂



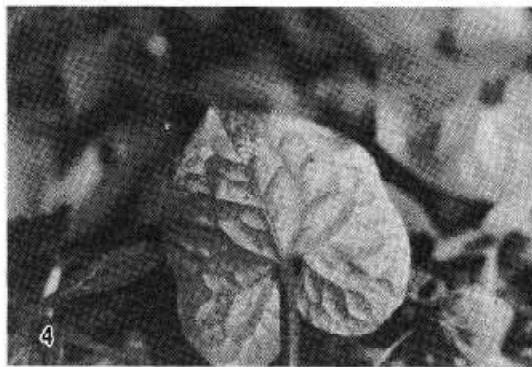
ヒメカンアオイ群落（奥津町井坂）



産卵されていたフタバアオイ（富村富西谷）



ヒメカンアオイの葉裏に産付された卵（同上）



フタバアオイの葉裏に産付された卵（同上）

井坂付近の吉井川の川岸に沿った山裾の雑木林には、ミヤコアオイに混じって一部ヒメカンアオイが生えており、ここでミヤコアオイとともにヒメカンアオイからも卵を確認することができた。両種とも日当たりのよい林縁に生えているものによく産卵されており、特に一方の種を好むということはないようと思われた。恐らくこの付近ではどちらも食草になっている可能性が強いが、ミヤコアオイに比べてヒメカンアオイの生育地は限られており、量的にも少ないので、全体としては主にミヤコアオイに依存しているものと考えられる。

II フタバアオイ [写真3, 4]

1985年4月20日 苦田郡富村富西谷

溪流沿いの雑木林内にあるフタバアオイの小さな群落で、わずか1卵塊ではあるが確認できた。同じ林内には各所にミヤコアオイが生えており、もちろんこれにも多数産卵されていたので、ミヤコアオイに混じって生えているフタバアオイに偶然産卵されたものと考えられる。

参考文献

- 1) 倉敷昆虫同好会 (1972) 岡山県の蝶、すずむし (108) : 8~9
- 2) 難波通孝 (1983) 岡山の蝶: 27
- 3) 山本正志 (1983) 新見市とその周辺のチョウ相、すかしば (20) : 35~40
(〒719-11 総社市真壁1048)

おどしぶみ

オニクリガタの新産地

山地 治

Prismognathus angularis WATERHOUSE オニクリガタは昨年度、県内から初めて蒜山・山乗山・後山の各方面より記録されたが、加茂町倉見の標本を渡辺和夫氏よりいただいているので、新産地として記録しておく。

6♀ 6♂, 加茂町倉見, 22~23. VIII. 1985, 渡辺和夫採集(灯火)

最近まで県内で採集されていなかったが、8月中・下旬にブナ帯での灯火採集で多数得られ出した。貴重な標本を下さった渡辺氏に感謝する。

(〒700 岡山市幸町9-9)

岡山県のカミキリムシ数種の記録

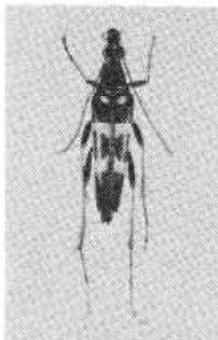
山地 治*・渡辺 昭彦**

今回、筆者らは渡辺和夫氏より多数の甲虫類の提供を受けたが、その中に県下での記録の少ないカミキリムシが多く含まれていたので、筆者らの記録も含めて報告する。貴重な標本を提供下さった渡辺和夫氏に感謝する。

1. *Strangalia koyaensis* MATSUSHITA

コウヤホソハナカミキリ

1♀, 勝田町右手岬, 20. VII. 1985, 山地採集



1984年には右手岬の鳥取側でシナノキの花に来ていたものが多数採集されているが、今回岡山県側のリョウブの花で採集した。樹相は岡山側が雑木林の二次林、鳥取側がスギの植林で、恐らく発生の主体は鳥取側なのである。県下初記録。

2. *Obrium nakanei* OHBAYASHI

ナカネアメイロカミキリ

1♂, 中和村山乘山, 10~11. VIII. 1985, 渡辺和夫採集 県下2例目の記録(灯火飛來)

3. *Epiclytus yokoyamai* (KANO) ヨコヤマトラカミキリ

1ex. 加茂町倉見, 29. VI. 1985, 渡辺和夫採集

4. *Sybra unifasciata* FUJIMURA

ヒトオビチビカミキリ

1ex. 加茂町倉見, 22~23. VIII. 1985, 渡辺和夫採集(灯火飛來)

5. *Callapoecus guttatus* BATES

ゴイシモモブトカミキリ

1♂, 中和村山乘山, 10~11. VIII. 1985, 渡辺和夫採集(灯火飛來)

(*〒700 岡山市幸町 9-9)

(**〒701-91 倉敷市上東1050-1)

岡山市におけるタテジマカミキリの記録

脇本 浩

本誌第120号で、福田元信氏が本種の採集記録を発表されているが、筆者も、岡山市において多数の本種を探集することができたので、報告しておく。

岡山市問倉, 9. II. 1985, 1ex. 目撃

タ 大井, 11. II. 1985, 2exs.

タ 足守, 11. II. 1985, 7exs.

タ 大井, 4. I. 1986, 5exs.

タ 足守, 5. I. 1986, 2exs.

タ 大井, 26. I. 1986, 2exs. 目撃

岡山市大井の採集地は、郷土自然保護地域に指定されている大井宮山の頂上附近にある大井神社で、周辺にはアラカシ・ナナメノキ・カクレミノなどの常緑広葉樹がよく茂っている。ここカクレミノはほとんどが本種によって食害されていた。また、岡山市足守の採集地は、有名な近水園の裏山にあたり、通称宮地山と呼ばれている山である。ここも大井宮山と植生が似ており、多くのカクレミノが本種によって食害されているのが観察された。

なお、筆者は、これら以外に、清音村蛭部山・福山、笠岡市御嶽山等で本種の採集を試みたが、カクレミノは多数観察されたものの、本種による被害木は1本も見られず、採集することはできなかった。

(〒719-11 都窪郡清音村上中島362-2)

ベニツチカメムシの記録

近藤 光宏

ベニツチカメムシは、採集例が少ないので、少し前の記録であるが、報告しておく。

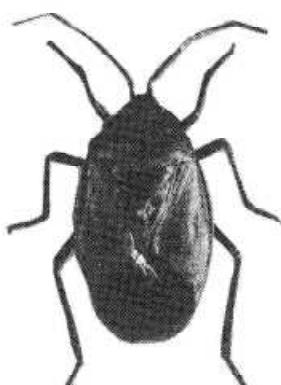
Panustrachia japonensis SCOTT ベニツチカメムシ

採集地: 倉敷市玉島阿賀崎3-3-1(玉島小学校内)

採集年月日: 1984年6月21日

採集者: 福里・上野(当時6年生)

採集個体: 1ex.



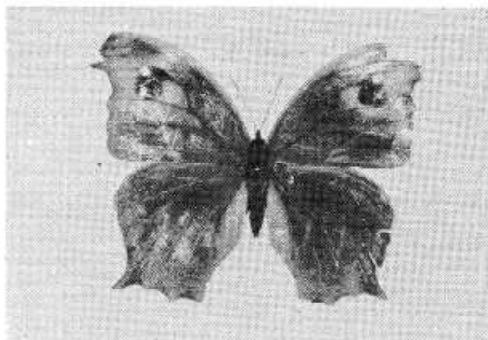
「学研中高生図鑑Ⅲ」によれば、ベニツチカメムシは、その名のように鮮紅色の美しい大型種で、地味な色をした他のツチカメムシに比べるとひときわ美しい

カムシシということができる。九州では、シイ・ネジキ・ヒサカキなどに群がっていることがあるが、一般に少ない。岡山県ではこれが初記録と思われる。

6月上旬に産卵し、雌は卵塊を守る習性がある。幼虫は地表で暮らし、落ちた果物などの汁を吸って育つ。成虫は人が近づくと、腹部背面とはねの基部をこすりあわせて、はっきりした音を出すことなどが知られている。体長16~19mm。分布は、本州・九州・奄美大島・中国など。〔半翅目ツチカムシ科〕

(〒710 倉敷市中央2-16-14)

発表を快諾された金谷氏及び今井氏に深謝する。



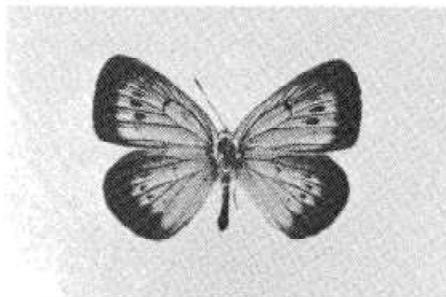
高梁市におけるゴマシジミの記録

脇本 浩

近年、岡山県下のゴマシジミの採集例があいついで本誌に発表されているが、筆者も、次のように採集することができたので報告しておく。

5♀、高梁市新城池、22. VII. 1984

2♂、タ、14. VII. 1985



採集地は、池から流れ出る小川の周辺のごく限られた狭い範囲の湿地で、周囲にはサギソウやサワギキョウを見る能够である。

(〒719-11 都窓郡清音村上中島362-2)

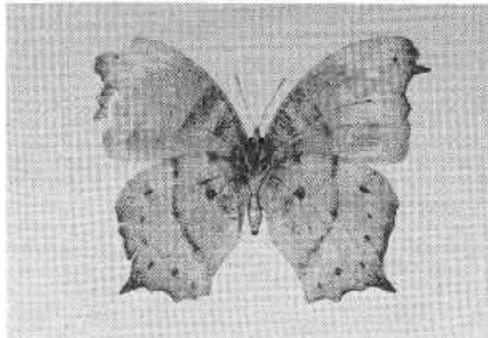
クロコノマチョウの越冬記録

織田 明文

過日、本会々員の今井勤氏のお宅へお伺いした際に、同氏の標本の中で氏の友人の金谷哲郎氏が採集されたというクロコノマチョウの秋型が目に止まった。

岡山県内において本種の越冬個体を採集した報告は、岡山市中之町¹⁾があるだけで、これに次ぐ貴重な記録と思われる所以報告しておく。

1♀、笠岡市小平井、29. IV. 1985 金谷哲郎採集
山裾の木立の中からフワフワと飛び出して来たのを追いかけて素手でつかまえた為に少々破損したとのことであるが、一見して秋型♀とわかるものである。



参考文献

- 1) 高原哲夫 (1962) クロコノマチョウを岡山市街で採集、すずむし12(4): 41
(〒701-12 岡山市佐山2105-9)

クロコノマチョウ秋型の採集記録

中村 具見

クロコノマチョウは暖地性の種で、岡山県でも過去にいくつかの散発的な採集例はあるが、確実に定着しているものかどうかは明らかでない。ところが、昨年(1985年)は比較的多くの個体が得られたようであり、筆者も次のとおり採集しているので報告しておく。

1♀ (目撃確認) 3♀、総社市見延、4. XI. 1985

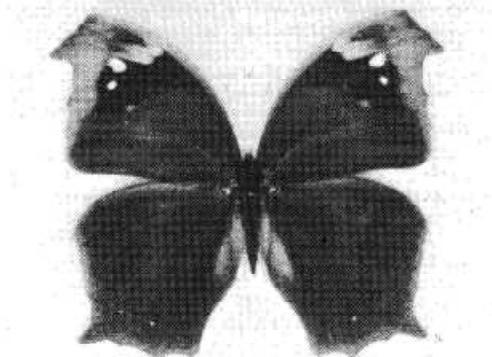
採集地点は、横谷川に沿って南北に細長い谷の中ほどの山裾に残る、シリブカガシにアラカシを混じえた照葉樹林である。ここはムラサキツバメの生息地として知られており、筆者もよく訪れるところであるが、今回もその越冬前の個体でも見れたらと思いながら立ち寄ったところ、本種を発見できたものである。

少し薄暗い、冷んやりとした感じの樹林内へ入ったところでいきなり1♀が飛びだした。この個体は静止場所を確認して何とか写真を撮影することができたが、最後は藪の中へ飛び去り、見失ってしまった。そ

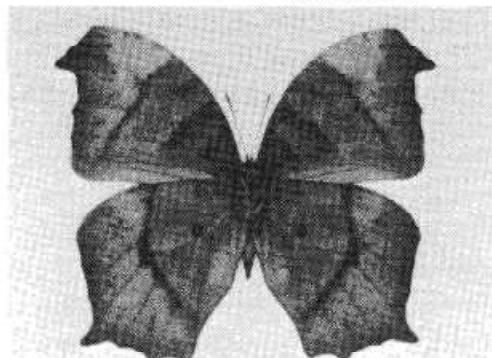
こで、一度家へ帰りネットを持参して、再度この樹林内を探すこととした。♀を発見した場所から少し離れた、さらに木が茂って一層薄暗い場所へ踏み込んだところ、地表に静止していたと思われる♀がたて続けに3頭飛び出し、このうち1♀の写真を撮影するとともにこれらを採集できた。



最初に発見したクロコノマチョウ ♀



クロコノマチョウ ♀ (総社市見延)



同上裏面

いずれも秋型の極めて新鮮な、発生直後とみられる個体ばかりであったことから、この付近で一時的にせよ発生したものであることは間違いないようである。本種は、近年全国的に分布を拡大する傾向にあるが、

県下ではこれまで同時に複数個体が得られたことはないようであり、今回の記録も含めて昨年の一連の採集記録は注目すべきことと思われる。

(〒719-11 総社市真壁1048)

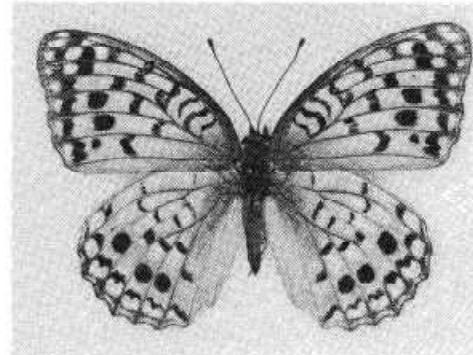
オオウラギンヒョウモンの採集記録

中村 具見

近年、急速に姿を消して全国的に稀種となりつつあるオオウラギンヒョウモンは、岡山県でも、かっては平野部を中心に少ないながら各所で見られたが、最近では中国山地の高原でわずかに得られるだけで、低地では全く採集されていないようである。このようなことを岡山市の木村健一氏にお話ししたところ、手元に1頭だけ標本があるということで見せていただくことができた。少し古い記録であり現在も生息している可能性は低いが、分布資料として次のとおり報告しておく。

1♀, 川上郡川上町弥高山, 24. VI. 1970

木村健一氏採集



なお、末筆ながら貴重なデータの発表を快諾された木村氏には深く感謝する次第である。

(〒719-11 総社市真壁1048)

マイマイカブリ ナメクジをおそう

近藤 光宏

マイマイカブリは、その名のようにカツツミリを食べるものと思っていたところ、このほどナメクジをくわえてうろついているマイマイカブリを目撃したので、この道に詳しい人にはあたりまえのことかもしれないが、一応データを添えて報告しておきたい。

日時：1986年4月22日 pm 3時40分

場所：倉敷市連島町弁才天（連島山の西端）

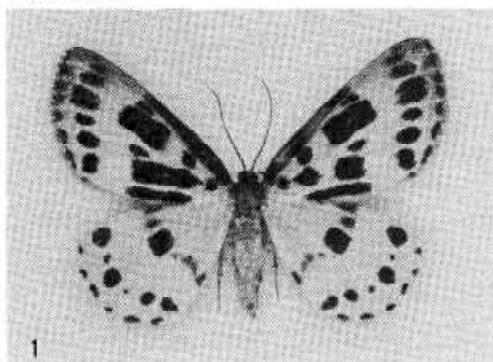
(〒710 倉敷市中央2-16-14)

ヒョウモンエダシャクの異常型

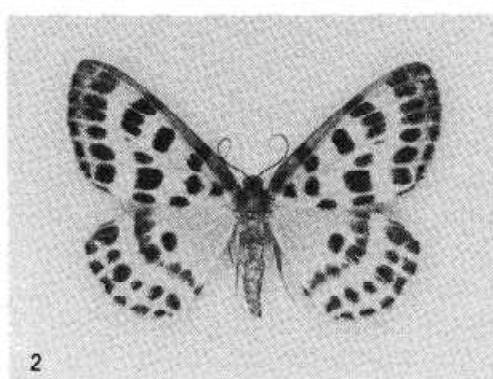
中村 具見

平地、山地ともに多産し、もっとも普通に見られるシャクガの1種であるヒョウモンエダシャクには、斑紋異常が少なからず認められるよう、前翅翅底部と第1室中央の2紋が合して細長い黒紋となる個体がしばしば得られる(井上1983)とされているが、筆者の手元にも次のとおりやや顯著な異常型があるので参考までに報告しておきたい。

1♀〔図1〕、新見市吉川、27~28. VII. 1985 筆者(採集保管)



1



2

この個体は、灯火採集でスクリーンに飛来したうちの1頭で、図示したように正常なタイプ〔図2〕に比べると、前翅の外横絞列が第1b、1c室及び中室端の3か所で内横絞列と融合し、細長い黒紋を形成しているものである。しかしながら、右前翅第1b室のみは全く異常が認められず、左右で斑紋異常の発現状況が異なっている。また、後翅では通常中室端の黒紋の外側にある外横絞列が内方へややすれてこの黒紋上を走っているほか、亜外縁の黒絞列のうち第3、5室の黒紋が著しく縮小しているなど軽微な異常が認められる。

引用文献

井上 寛 (1983) シャクガ科、井上 寛ほか、日本産蛾類大図鑑1:536

(〒719-11 総社市真壁1048)

シルビアシジミの異常型

林 博之

筆者は、シルビアシジミの翅形異常個体を採集しているので、少し古い記録であるが報告しておく。

1♀、総社市溝井、7. V. 1982



写真のとおり、前翅は翅長に対して翅幅が著しく短かいために翅形が細長くなっています。また、後翅も縮小していて、全体として非常にユニークな感じを受ける異常型である。

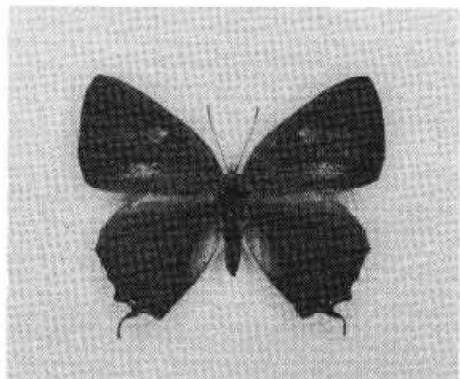
(〒712 倉敷市南畠5-5-43)

ヒロオビミドリ♀B型の記録

中村 具見

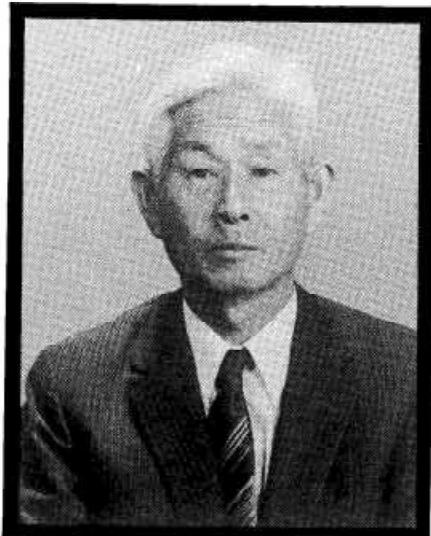
ヒロオビミドリシジミの♀の翅表は普通O型で、稀にA型やB型があらわれるといわれるが、筆者の採集した中にもわずか1頭ではあるが、第1室に薄く青色鱗を散布したB型とみなされる個体があるので報告しておく。

1♀、上房郡有漢町大谷、3. VII. 1977



(〒719-11 総社市真壁1048)

風早保男氏を偲んで



1983年7月 フィリピンにて

略歴

1919. 1. 9 誕生
 1938. 3. 17 岡山県師範学校卒業
 　　3. 31 阿哲郡田治部尋常高等小学校訓導
 1939. 4. 1 吳海兵团入団
 　　8. 31 吳海兵团退団
 1940. 8. 31 阿哲郡田治部青年学校助教諭に兼補す
 1941. 4. 1 阿哲郡田治部国民学校訓導
 1942. 3. 31 阿哲郡恩誠国民学校訓導
 　　8. 31 御津郡中山国民学校訓導
 　　岡山県女子師範学校訓導に兼任
 1946. 6. 22 地方教官に任し、3級に叙せられる
 　　現在勤学校勤務を命ぜられる
 1947. 4. 1 吉備郡総社東中学校教諭
 1958. 4. 1 在籍専従
 1967. 4. 1 復職 総社西中学校教頭
 1971. 4. 1 御津郡加茂川町立津賀中学校校長
 1974. 4. 1 総社市立常盤小学校校長
 1976. 4. 1 総社東中学校校長
 1978. 3. 31 退職
 1985. 7. 25 死亡

す ず む し へ の 投 稿 の 軌 跡

- | | |
|------------------------------|------------|
| 奥津附近の蝶類について (1957) | 6(3): 9 |
| 私の現在 (1957) | 7(1): 14 |
| 阿哲狹のニシキキンカメムシについて (1957) | 7(2): 11 |
| 豪渓からトラフシジミ (1957) | 7(2): 13 |
| 八ガ岳採集品目録 | |
| 風早保男・船越俊平・青野孝昭 (1957) | 7(4): 7~14 |
| ある私信 (霧が峰に登らざるの記) (1960) | 10(1): 7~8 |
| 恵まれなかった対馬での採集 (1975) | 111: 10~12 |
| キタテハの行動について (1975) | 112: 37~38 |
| 臥牛山のカミキリムシ 2種 (1975) | 112: 40 |
| リングドクガの幼虫をレンゲツヅジから発見 (1977) | |
| 114: 20 | |
| 燈火に交尾飛翔するシロフユエダシャク (1977) | 114: 20 |
| ゴマダラチョウ幼虫の1観察例 (1977) | 114: 43 |
| 狂い咲きのエニシダ?にウラナミシジミの産卵 (1977) | |
| 114: 43 | |
| 総社市でナガサキアゲハの越冬蛹 (1977) | 114: 44 |
| アオスジアゲハの斑紋異常型 (1982) | 118: 45 |
| ウタナベカレハを岡山県大佐町で採集 (1985) | 120: 14 |

風早先生を偲ぶ

青野 孝昭

昨年の、夏もいよいよたけなわという7月末、脇本浩氏から本会幹事風早保男先生が亡くなられたとの電話をいただいた。突然のことで信じがたく、ついこの間、幹事会で夜遅くまでご同席させていただいたのにと、呆然としてしまった。

体が空いてさえいれば、どんなきついことでも嫌な顔一つされず気軽に引き受けておられた先生は、この日も、総社市立神在小学校校庭植栽樹の名札づくりのご指導のため猛暑の日を作業にあたられ、帰宅途上から心筋梗塞の発作に襲われ、川崎病院での手当のがいもなく、不帰の客となってしまった。お聞きしたところによれば、前日来体の不調に気付かれながら、断るにしおび出かけられたとのことで、まことに惜しい人を失い、哀悼の至りにたえない。

風早先生は大正8年のお生れで、昭和13年に岡山県師範学校をご卒業された。直ちに、阿哲郡田治部尋常小学校訓導を皮切りに教職の道に進まれ、途中、吳海兵团に入隊されたり、岡山県教職員組合執行委員長を務められたりもなさったが、昭和53年総社東中学校長の職を最後に停年退職されるまで、40年間にわたり、文字通り激動の昭和史の中を教育に生き抜かれた方であった。

私が風早先生に、親しくご厚誼をいただくようになったのは、昭和29年の大卒後、初任校が総社東中学校に決まったおかげである。もともと植物にご造詣の深かった先生が、蝶にうつを抜かしていた私に、理科展示用に標本づくりのプランを持ちかけられ、取り組んでいるうちに、いつの間にやら先生ご自身も昆虫に熱を上げられ、大変楽しい毎日を送らせていただいた。

やがて、八ヶ岳や沖縄へは採集行を共にさせていただき、少々のことにはびくともしない冷静・沈着な行動力や、疲れ知らずのタフな体力を持っておられることに、さわやかな頼もしさを感じさせていただいた。

間もなく、先生には、信望を得て、教職員組合の県役員として教職現場を離れられ、9年後に現場に復帰されてからも、多忙な毎日を送られる身となられた。その間にも、倉敷昆虫同好会には、ずっと所属せられ、会誌「すずむし」へも“阿哲峠のニシキキンカメムシ”などの寄稿をされてきた。

風早先生が、現職にご在職中、いかに公のために自分を殺して尽されていたかは、停年退職の折りにいたいた挨拶状の一節からも明白で、文面からはそのお

気持が痛いほどに伝わってくる。

—前略—これから新しい生活に入ります 夏休みを迎えた小学生の気持です 「今日からは学校へ行かんでもええ したいことが一ぱいある！」しかし一面では「こんどはフレッシュマンだから謙虚にな」と自分で言いきかせています 後略

その後、新しい仕事のかたわら、風早先生がブータンをはじめ、アラスカ・アメリカ・ボルネオ・フィリピン・台湾などと毎年のように海外遠征を実行されたり、倉敷昆虫同好会幹事を心よく引き受けて、お世話をいたしたりしたことは、周知の通りである。

先生は、人生の楽しみ方を本当に心得ておられた方で、どんな地位にあろうと、決しておごらず、周りに、いつも、あたたかく、なごやかな空気を漂わしておられた。

自宅の敷地に胡蝶館を創って公開されたり、地元の方々からも親しまれ、慕っていた先生は、次期村長候補として、担ぎだされるばかりになっておられた。それなのに、無情にも天は先生に時を与えておられた。

謹んで先生のご厚誼を感謝し、ご冥福をお祈り申しあげる次第である。

(〒710 倉敷市大内937-8)

風早先生と大佐山の思い出

近藤 光宏

本会の行事として大佐山調査会へいったのは、昭和60年6月29~30日。悲報をお聞きしたのは、それから1ヶ月もたたないある真夏日であった。1泊2日の採集行をあれ程元気に過ごされたことを思うと、とても信じがたい出来事であった。そしてこの大佐山採集行が、先生との最後のお別れになろうとは……。

6月29日は前夜來の悪天候で、山行は当然中止されるものと思っていた。しかし、電話でお尋ねしたところ、予定通り行くとの返事が返って来た。午後になって、ますます天候は悪化している。出發に先立ち念のためもう一度電話をしたところ、先生は既に同行の中村氏宅へ向けて出發された後だった。全く気の進まない出發となる。落石・崖くずれ・不通などを心配しながら予定のコースを進む。小阪部ダム（北房ダム）を過ぎたあたりから、各所で小落石が目立つようになる。スピードを落とし、安全運転に専念する。かなり時間の余裕を見ていたつもりが、大佐山山頂に着く頃は、集合時間の6時ぎりぎりであった。山頂が近付くに従い、ガスが濃くなる。大佐山はじめてということもあって不安なおももちであった。突然、目前に風早先

生をはじめ中村・渡辺・吉原氏の姿が!! 見通しが悪いので道を間違えてはという本当の温かい思いやりから、私一人の到着を待っていて下さったのである。その時、山の男の友情のようなものを感じて、大変ありがたいと思った次第である。

この時の大佐山採集行では、今から考えると不思議と思われる出来事がいくつかあったように思う。残された時間を惜しまれるかのように、かつて行かれた所を再度見納めのため訪れておられたようにも思われた。

初日は、宿舎の北側の窓下にスクリーンを張って、カシワの自然林からの蛾・甲虫等の飛来を待ちながら、缶ビール片手に虫談義に花が咲いた。中でも、先生のボルネオ紀行には、虫心を終始かりりてられた。

翌30日も雨模様、せっかくここまで来たのだからと、頂上をきわめてから下山することにした。頂上はハンググライダーの基地になっているが、ガスが濃くて、展望はまったくきかなかった。早々に現地解散、年令相応のグループに分れ、私は先生と2人で下山することになった。途中、竜王ヶ池に立ち寄りアメンボ類を採集した。この池も最近人手が入り、様変わりしてしまったとのこと。

悪天候下、帰路を心配する私の気持をよそに、「大佐ダムへ行ってみようか」と先手を打たれ、気の進まないまま後に従う。しかし思ったほどの収穫がなく、さらに奥地の御洞滝へ案内されることになった。ところが、ここで記憶のよい先生が道を間違われる。通り過ぎてしまったのである。引き返して何とか滝に着き、小休止の後やっと帰路に着くことになった。大事をとって勝山・落合経由を選ぶ。

中津井の多和山峠を越えて間もなく、急坂で先生の車が止まる。私に先に行くように指示されたので、通り過ぎて道幅の広い所で待ったが、一向に来られない。引き返す。パンクである。再度私に先に帰るように勧められたが、先生はただ立ってうろうろしているだけである。やはり手伝うこととした。というより手伝ってよかったのである。狭い急坂のこと危険である。口ほどに体が動かないのは、相当疲れているからであろう。結局ほとんど私の手でタイヤ交換を完了する。先生のはっとされたお顔が今でも目に浮かぶようである。

高梁市に入り、臥牛山登山口の信号にかかり車が止まる。窓を開けられたので横付けしてみると、今度は「新城池へ案内しようか」と言われる。もうこうなったら腹を据えなくては、と思った。落合橋を渡り、ワンドーランドへの道をたどる。しばらく登ってから左

手に折れる。ここで今日二度目の迷い道となる。目的地よりはるか北方の高所に迷い込み、次第に道幅が狭くなり、時々下車してみないと前進できなくなる。通行人を待って道を尋ねるはめとなる。

新城池は明らかに人工の貯水地で、かなり高所にある大きな池である。しかし、もうアメンボを採集する気力もなく、池の周囲を一回りして、北側の谷筋の流水づたいにしばらく歩いて駐車場へもどる。午後もすでに4時、次回幹事会での再会を確認してお別れをした。そして、これが風早先生との最後のお別れとなってしまったのである。

写真は、大佐山ファミリーパーク内センターハウス前にて先生ご自慢のミノルタα7000で中村氏に撮っていたもので、後日、奥様が現像され、わざわざ私共へご恵与下さったものです。ここに厚くお礼を申し上げます。



左:筆者 右:風早保男先生

風早先生は、今さら申し上げるまでもなく、名実共に本当にすばらしいお方で、私の尊敬する数少ない先生の一人でした。この度の大佐山の思い出をいつまでも大切にさせていただき、ここに謹んで御冥福をお祈りいたします。

(〒710 倉敷市中央 2-16-14)

風早先生の思い出

渡辺 和夫

今を去ること16年前、中学校1年生の秋である。友人の影響で昆虫に興味を持ち始め、自宅周辺の虫をつかまえてはデパートで買った紙製の標本箱に入れて悦に入っていた頃である。当時先生は教頭であられたが、「君は虫をやっているそうだね。それなら倉敷に昆虫同好会があるから是非入会しなさい。」と気軽な感じで勧められ、友人と2人、本会に入会させていただいた。それと同時に、当時先生が顧問をしておられた生

物クラブに入部させていただいた。これが私と風早先生との出会いである。

先生は実に行動的なお方で、クラブ活動についても非常に積極的にやっておられ、入部した翌年（昭和45年）夏には、クラブ員総出で新見市草間へ野外活動の一環として、キャンプにつれていっていただいた。その頃はまだ井倉洞しか有名でなく、羅生門・満奇洞といった今の観光名所は人影も少なく、生物の野外観察にはもってこいだった。まわりの雑木林にはミヤマクワガタが多く、クロシジミを初めて探ったのもなつかしい思い出である。もっとも、数年後にはラベルと虫ピンだけになってしまっていたが……。

その年の秋、文化祭である。先生は実に大胆な計画を立てられた。理科室に「木」を持ち込まれたのである。部屋全体に白布を張らせ、一角にその大木（もちろん枝も適当についている）を据えられたのである。何をするつもりなのかとクラブ員が見守る中、先生は「おい、理科室を野外にするぞ。」と言われ、一同やっと納得する。植物採集など分担して準備を進める中で、虫を担当したのは私と友人と先生の3人である。標本箱をいくつか並べる。夏のキャンプの様子を写真を添えて再現する。その内先生が「夜の場面を作ろう。」と言い出し、例の木を雑木林中で樹液が出ていた木にみたてて、まわりに暗幕を張り、幹にそれらしいキズ

をつけ、クワガタやカナブンの標本をそれらしく並べる。しかし、蛾は展翅標本では都合が悪い。早速その夜、近所の電燈に採集に行き、翅を閉じたままの標本を作る。もちろん比較用に展翅標本がある種類をという命令つきだ。

もうもうの準備が終わり、一同一息ついていると、先生は「それでは最後の仕上げだ。」と言われ、横断幕？を書かれることになった。しばらく考えられた後、先生独特の特徴ある字で書かれたのは、「偉大な教師、自然に学ぼう！」という言葉だった。

その当時にも大いに感銘を受けた言葉だが、今思えば、これはまさしく先生の生き方そのもの、人生そのものであったように思われてならない。常にフィールドに出ることを第一とし、海外遠征も含め幅広く活動を続けられた先生の姿勢は、虫に興味を持つ人の原点であり、地域の昆虫相の解明になくてはならない姿勢であると思われる。ともすれば忘がちなこうした姿勢について、思いを新たにしている今日この頃である。

私にとって、虫の世界に引きずり込んだ憎むべき張本人であり、自然のすばらしさ・複雑さを教えてくださったかけがえのない恩人であり、これから私の人生の目標とも言うべき風早先生。謹んで御冥福をお祈りいたします。

(〒719-11 総社市三輪203)

投 稿 規 定

1. 報文の原稿は次のような体裁にする。
 - (1) 用紙は400字詰横書原稿用紙を用いる。
 - (2) 記述は表題、著者名、現住所、本文、要約、文献の順序とする。
 - (3) 動植物の和名は片かなで書き、学名は *Papilio xuthus LINNE* のように下線で引く。
 - (4) データの記載は次のように略記する。
2 ♀ 1 ♂, Aug. 26, 1966 または 2 ♀ 1 ♂, 26. Ⅷ.
1966など
 - (5) 読点は (., : " ")などを用い、句読点及びカッコは1マスに1つ、数字や英字は1マスに2字ずつ書く。
 - (6) 文献は本文に引用したものに限り、著者名のアルファベット順に並べて下記のような形式で記す。
大野正男 (1966) 広島県のハムシ相. すずむし,
16(1): 1—11
MOT Schulsky, V. (1865) Homopteres in in-
sectes. Etud. Ert. 8: 25—118
 2. 報文は簡潔に記すこと、原稿は返却しない。
 3. 別刷は著者の負担で調製できる。原稿1頁欄外に必

要部数を朱書すること。

4. 原稿の送付は下記宛とする。

〒710 岡山県倉敷市幸町 重井病院内
倉敷昆虫同好会

出版物分譲案内

- 岡山県の昆虫 (1978) B5, 146pp, 会員1,200円, 一般1,500円, 送料250円
- すずむしバックナンバー

| | |
|-----------------|---|
| 16 (2, 3, 4合併号) | 1,000円 (〒200円) |
| 17 (1, 2) | 各500円 (〒170円) |
| 18 (1, 2) | 各500円 (〒170円) |
| 19 (1, 2合併号) | 1,000円 (〒170円) |
| 106号 | 600円 (〒170円) |
| 107号 | 400円 (〒120円) |
| 108—117号 | 各1,000円 (〒170円た だし110, 114号は〒 200円) |
| 118号—120号 | 1,500円 (〒200円) |
- 申込みは送料をそえて、前金 (現金、振替、小為替) で本会事務所へ。

-----目

- 岡山県のウスバシロチョウ 渡辺和夫 1
 岡山県より採集した甲虫類の記録 山地 治 13
 岡山県のコメツキムシ追録Ⅲ 渡辺昭彦 20
 トモンハナバチの記録 原田裕康 21
 岡山県で採集したコノマチョウ属について 林 博之 23
 近年のタガメの生息及び生態 西崎健二 28
 岡山県のクビキリギス 近藤光宏 29
 鳥取県右手峰におけるカミキリムシの記録 福田元信 30
 岡山県未記録のキバチ類 渡辺昭彦 31
 大佐町大佐山調査会における採集品目録 倉敷昆虫同好会 32
 ギフチョウの産卵植物 2例 中村具見 34
 一おとしぶみ
 オニクワガタの新産地 山地 治 35
 岡山県のカミキリムシ数種の記録 山地 治・渡辺昭彦 36

次-----

- 岡山市におけるタテジマカミキリの記録 脇本 浩 36
 ベニツチカメムシの記録 近藤光宏 36
 高梁市におけるゴマシジミの記録 脇本 浩 37
 クロコノマチョウの越冬記録 織田明文 37
 クロコノマチョウ秋型の採集記録 中村具見 37
 オオウラギンヒョウモンの採集記録 中村具見 38
 マイマイカブリ ナメクジをおそう 近藤光宏 38
 ヒョウモンエダシャクの異常型 中村具見 39
 シルビアシジミの異常型 林 博之 39
 ヒロオビミドリ♀B型の記録 中村具見 39
 風早保男氏を偲んで 40
 風早先生を偲ぶ 青野孝昭 41
 風早先生と大佐山の思い出 近藤光宏 41
 風早先生の思い出 渡辺和夫 42

医療法人 重井病院

倉敷市幸町 ☎ 0864(22)3655

編集後記

予定よりかなり遅れましたが、第121号をお届け致します。

当初は原稿の数も少なく発行そのものが危ぶまれましたが、最終的には鱗翅目・鞘翅目をはじめ広い分野からの投稿があり、嬉しい悲鳴の中で編集作業を進めることができました。

今後とも、報文・短報共に積極的な投稿をよろしくお願い致します。

(KW)

シーズン入りまでに「すずむし」を仕上げようと思いながらも、ギフチョウの舞う便りを聞くともうフィールド優先。遅れついでになお遅れて、到々ゼフの飛ぶ季節となってしまった。と編集者らしく書いてはいるものの、実は作業の大部分はW氏の手を煩わしたもので、実際編集後記なんか書く資格は今回もないである。ともかくカトカラには何とか間に合いそうだから、今年はこれでやっと落着いてフィールドに出られる。

(N)

す す む し 121 号

1986年6月15日発行

発行者 倉敷昆虫同好会 (〒710 倉敷市幸町 倉敷昆虫館内)
 振替口座 岡山1-6927
 印刷所 サンコー印刷株 (総社市真壁871-2)